

少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究（2）

ーワーク・ライフ・バランスとジェネラティビティ行動ー

母子保健研究部 齋藤幸子
客員研究員 宮原 忍
嘱託研究員 近藤洋子（玉川大学）
人間総合科学大学 星山佳治
目白大学 内山絢子
国立社会保障・人口問題研究所 佐藤龍三郎

要 約

少子社会における養育力育成の方策を考えるための資料収集を目的に、人格の発達とワーク・ライフ・バランス(以下WLBと略す)、ジェネラティビティ行動、大人観、育児観などの関連を調べた。人格発達の指標としてEPSI（エリクソン心理社会的段階目録検査）を用い、20代、30代の仕事を持つ男女440名を対象に分析した。

1. EPSI得点の高い群は低い群に比べ、WLB達成度、WLB満足度、ジェネラティビティ行動得点が高かった。
 2. 大人であるとの自覚がない群は、自覚がある群に比べて、父母や周囲から未だに大人として扱われていない割合が高かった。また、育児観、WLB達成度、WLB満足度、ジェネラティビティ行動、EPSIの得点がいずれも低かった。
 3. どのような場合、大人として扱われていないと感じたかは「甘えが通る」「過剰に干渉される」「信頼されていない」時などの回答が多かった。
 4. 未熟な大人が増えている原因としては「人間関係が希薄で社会性が育たないから」「家庭の教育力が低下しているから」「親が青年期の子どもを大人として扱わないから」などであった。
- 以上から、人格の成熟は、仕事と生活のバランスをとり、ジェネラティビティ行動を生み出すと考えられ、若者を大人として扱うことが肝要であることが示唆された。

キーワード：少子化、ジェネラティビティ、ワーク・ライフ・バランス、ジェネラティビティ行動、EPSI、SOC

Generativity and Decreased Fertility of Japanese Society : A Survey on the Work-life Balance and the Generativity Behavior

Sachiko SAITO, Shinobu MIYAHARA, Yoko KONDO,
Yoshiharu HOSHIYAMA, Ayako UCHIYAMA, Ryuzaburo SATO

Abstract : To explore the possibility of making a policy against the decreased fertility in Japan, relations between personal maturity and the following factors were examined: images of adulthood, consciousness to child-rearing, behaviors relating to generativity and work-life balance. The personal maturity was evaluated with Erikson Psychosocial Stage Inventory (EPSI) using 21-items and Sense of Coherence (SOC). A sample of 440 of both sexes in their 20's -30's was analyzed.

1. EPSI scores were positively associated with scores on generativity behavior, work-life balance and feelings of satisfaction for their work-life balance.
2. People who did not feel themselves adult tended not to be treated as adults by others surrounding them, and scored significantly lower than people who felt themselves adult on the scores of consciousness of child-rearing, generativity behaviors, work-life balance and EPSI.
3. When their overreliances were accepted, when they were interfered with excessively, or when they were not trusted, they did not feel themselves treated as adults.
4. The reasons why the number of immature adults has increased are considered to be as follows: "Interpersonal relationship has become sparse and many have failed to socialize in youth, "Home educational power declined, "Parents do not treat their children in youth as adults"

Keywords : Generativity , Decreased Fertility, Work-life Balance, Generativity Behavior, EPSI, SOC

I 緒言

少子社会とは、出生率が人口の置き換え水準を下回る社会を指すが、我が国の出生率はその水準 2.08 を下回ったままさらに低迷し、出生率が 1.5 を下回る超少子化国のひとつと言われている¹⁾。1989 年の 1.57 ショック以来、様々な少子対策がとられてきたが、出生率の回復という点では功を奏さず、2006 年をピークに人口減少社会に突入している。子どもが少なくてもよい、人口が減ってもよいという意見もあるが、すでに人口減少社会を迎えた我々にとっては、もはやこの社会をどのように維持継続していくかが課題となっている。

本研究は少子問題について、出生率だけを問題にするのではなく、少子社会に生まれた子どもを健やかに育て、育てる側も充実した人生を送りつつ、どのように社会を継続させていくかという視座に立っている。この世代継承、次世代育成といった課題遂行のために必要な個人および社会の指向性や能力を養育力と表し、その中核概念は“ジェネラティビティ”であると捉えている。

ジェネラティビティ (Generativity: 邦訳「生殖性」、
「世代性」など) とは、エリクソンの人生発達段階成人期の課題であり、「子孫を生み出すこと、生産性、創造性」を包含する概念である。また、「生殖性対停滞の対立命題から生まれる新たな『徳』つまり『世話』は、これまで大切に (care for) してきた人や物や観念の面倒を見る (take care of) ことへの、より広範な関与」であり、「成人期に至るまでの人間生活の『蓄え』が必要不可欠である」とされている²⁾。そこで本研究では、養育力の低下とは小此木³⁾が指摘したように、“ジェネラティビティ・クライシス”であり、人格成熟の問題であるととらえ、EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査) を用い⁴⁾、人格の成熟度と出産意欲や育児観などの養育力をあらず因子との関連を明らかにしてきた⁵⁻¹²⁾。また、2006 年度においては、人々の持つ「大人観」を調べ、大人というイメージの中で“ジェネラティビティ”に関する項目は下位に位置していることが分かった⁵⁾。

本年は、大人になることの意味を追究するとともに、少子高齢社会で求められる、育児に限定されない広い意味での養育力としての「ジェネラティビティ行動」やワーク・ライフ・バランスとの関連を明らかにするための調査研究を行った。

すなわち、出生力の低下、虐待、いじめなど児童関連の問題のみならず、就労環境における次世代の育成、技術の継承などに関する問題は、社会および社会を形成する個人々の養育力 (ジェネラティビティ) の問題であると捉え、この社会を継続させていくために必要な個人および社会の養育力を育成するための基礎資料を得ることを研究目的とした。

II 研究方法

Web アンケートによりデータを収集し、性別年代別などの属性別の分析、および以下の仮説の検証を行った。

仮説 1: 人格の成熟度の高い人は、仕事と生活の調和を取り、ジェネラティビティ行動がとれる。

仮説 2: 大人として扱われることが、大人としての自覚を促し、人格の成熟を促す。

1. 調査方法

20 代・30 代の男女を対象に、インターネット経由のアンケートを実施した。株式会社ドゥ・ハウスにおける全国約 50 万人の登録者から、対象の年齢層 2,900 名をランダムに抽出し、E-mail によってアンケートを依頼し、Web page 上で回答を求めた。各年齢層、男女それぞれ先着 100 名を目安に締め切り、20 代男性 106 名・女性 113 名、30 代男性 105 名・女性 116 名の計 440 名を集計対象とした。

2. 調査時期は、2008 年 2 月であった。

3. 調査内容

属性 (年齢、就業形態、婚姻関係、年収、労働時間など)、エリクソン心理社会的段階目録検査から同一性、親密性、生殖性 (ジェネラティビティ)⁴⁾、ワーク・ライフ・バランス達成度、ワーク・ライフ・バランス満足度、ジェネラティビティ行動、SOC (首尾一貫感覚) 短縮版¹³⁾、大人観、育児観、将来の明るさについて、などであった。

今回新たな試みとして、EPSI の 8 領域 56 項目から 3 領域 (同一性、親密性、生殖性) 21 項目のみを使用した。その目的は、回答者の負担を軽減するとともに、他の設問を追加可能にすることであった。事前にその有効性を検討するため、昨年度のデータを用いて 56 項目の場合と 21 項目の場合の結果を比較して、同傾向の結果が得られることを確認した (稿末に資料添付)。また、丸島らも、EPSI の同一性と生殖性のみと使用して世代性行動の検討を行っており (丸島はジェネラティビティの訳に“世代性”を使っている)¹⁴⁾、21 項目でも本研究の指標として使用できうるものと判断した。

各尺度については以下の通りである。

- 1) EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査) 56 項目から、同一性、親密性、生殖性 (ジェネラティビティ)、各 7 項目、計 21 項目を使用。0=全く当てはまらない~4=とてもよく当てはまる、の 5 件法³⁾。
- 2) ジェネラティビティ行動: Generative Behavior Checklist (GBC)^{15) 16)} 50 項目中 (うち 10 項目は Filler Items で、スコアに含まれない)、我が国でも使用に耐えうると判断した項目を参考に作成。GBC の指示と同様に、各行為を過去 2 ヶ月間の間に、0 = 1 度も行なわなかった、1 = 1 回行った、2 = 2 回以上行った、の 3 件法。15 項目。

- 3) ワーク・ライフ・バランス達成度（以下、WLB 達成度と記す）：「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」・「仕事と生活の調和推進のための行動指針」（平成 19 年 12 月 18 日、官民トップ会議）の〈個人の実現度指標〉の項目をもとに作成した¹⁷⁾。1=全く当てはならないー4=当てはまる、の4件法。11項目。
 - 4) ワーク・ライフ・バランス満足度（以下、WLB 満足度と記す）：1=不満であるー4=満足している、の4件法。
 - 5) 育児観：昨年と同内容⁵⁾で、育児観他、社会性などを含む。1=そうは思わないー4=そう思う、の4件法。15項目。
 - 6) SOC（首尾一貫感覚）短縮版：13項目、7件法¹³⁾。
4. 分析方法：有意差検定は Wilcoxon, Kruskal-Wallis の順位和検定、多重比較は Scheffe の方法で行った。以下有意判定の危険率 0.05 以下を有意差ありとした。
5. 倫理的配慮：Web 調査はプライバシーマーク取得業者を通じて実施し、個人情報には依頼者側に知らされない。

Ⅲ 結 果

1. 対象のプロフィール

平均年齢は、30.8 歳で男女の差はなかった。居住地は全国にわたっていたが、首都圏在住が 40.5%を占めた。学歴は大学・大学院卒が 51.8%であった。

勤労形態は、正社員が 57.0%、次いでパートアルバイト・非常勤が 18.6%、派遣社員が 8.2%、契約社員が 5.7%などとなっていた。正社員は男性 71.6%・女性 43.7%と男性の割合が高い。

調査前 1 週間の労働時間は全体の平均が 42.5 時間、性別では、男性 47.5 時間・女性 37.8 時間で男性が長く、内残業は全体の平均が 5.0 時間、男性 6.8 時間・女性 3.3 時間で男性が長かった。

前年の年収は、300～400 万円未満が最も多く 23.2%、200～300 万円未満が 19.1%、100～200 万円未満が 15.9%、400～500 万円未満 15.5%、などとなっていた。各カテゴリーの中位の値（100 万～200 万は 150 万）をとって平均値を算出すると、男性 395 万円、女性 253 万円であった。

婚姻率は 39.3%で性差はなかった。これ以外に事実婚は 0.9%であった。子どものいる人は 25%で、平均子ども数 は 1.7 人であった（表 1）。

2. 全体集計結果

はじめに、全体の単純集計結果および、性・年代別など属性によるクロス集計結果をについて以下に示し、昨年度と同じ内容の設問については、比較して言及する。なお昨年度の対象は、大学生とその親および乳幼児の親であり、本年より高齢層が含まれている。

2-1. 大人観

1) 「1人前の大人になる」ということ

「1人前の大人になる」とはどういうことであると考えられるかでは、昨年度の 1 位から 3 位は、「責任ある行動がとれる」「経済的に親の世話にならない」「社会的常識が身につく」であった。今回は、これらの次に大切と思う項目を 3 つ選択とした。

上位に選択された項目は「親から精神的に自立する」57.5%、「判断力・決断力がつく」47.3%、「受容・寛容・我慢強さを身につける」39.1%と、自立・自律を示す項目であった。次いで「人と調和してやって行ける」27.7%、「家族ができる」27.0%など人との関わりに関する項目が選ばれた。ジェネラティブティを表す「周りの人を気遣い、世話をやく」は 10%、「自分より年下の面倒をみる」は 3%と最下位であった。性別・年代別にみても、上位 3 項目は同じ項目が並んだ（表 2-1）

2) 大人として扱われること・大人の自覚

現在父親に「大人として扱われている」は 63.6%、母親には 68.9%であった。非該当を除くと、父親には 21.6%、母親には 25.5%が大人として扱われていなかった（表 2-2、2-4）。親が大人として扱ってくれるようになった年齢の平均値は、「父親から」21.8 歳の時、「母親から」21.6 歳の時であった。性別で見ると、「父から」は、男性 21.6 歳・女性 22.0 歳、「母から」は、男性 21.5 歳・女性 21.7 歳でいずれも有意な差はなかった（表 2-3、2-5）。

自分が大人になったと感じた時期は、「仕事についてとき」39.5%が最も多く、昨年（43.8%で 1 位）と同傾向であった。本年追加した項目「選挙で投票をした時」は 0.9%、「収入をある程度得られて経済的に余裕を感じた時」は 7.7%であった（表 2-6）。

自分が大人になったと感じた時の年齢の平均値は 22.2 歳であった（表 2-7）。性差はなく、昨年度も同じく 22 歳との回答が最も多かった。

上司や家族など周囲から「大人として扱われていない」と感じることは、「ない」51.1%、「たまにある」33%、「時々ある」11.8%、「いつもある」4.1%であった。性差はなく、年代別では、20 代が 30 代に比べて「大人として扱われていない」と感じるが多かった（表 2-8）。

どのような時「大人として扱われていない」と感じるかでは、「甘えが通る」43.3%、「過剰に干渉される」34%、「信頼されていない」30%が上位を占めた。上位 3 項目は男女同じであったが、順位は男性の 1 位が「信頼されていない」で 39%であり、女性の 1 位は「甘えが通る」53%と半数を占めた（表 2-9、図 1）。

未熟な大人が増えている原因については、「人間関係が希薄になり、社会性などが育たないから」56.1%、「家庭の教育機能が低下しているから」49.2%と、社会や家庭の養育力に関した項目が上位を占めた。次いで「親が、青年期以降の子どもを、大人として扱わないから」「大人

になるとはどのようなことかのイメージが備わっていないから」の2項目が同率32.3%、「親元を離れて生活できる社会基盤（仕事や住まい）がないから」31.6%、「若者が、大人になりたくないとと思っているから」30.7%と、30%台が4項目続いた（表2-10、図2）。

法的な成人年齢が18歳に引き下げられることについては、「適切だと思う」31.1%、「適切ではないと思う」44.1%と、反対意見が賛成を上回った（表2-11）。

その理由についての記述回答では、賛成派は「高校卒業して社会に出る人もいるから」「18歳になれば自分のことに責任が持てるから」「政治参加を早く」など18歳を大人と認める記述や、「未成年の犯罪が増えている」など犯罪責任に言及するもの、大人とは認められないが「自覚を促す」「自立は早い方がよい」などその効果に期待するもの、その他、単に「欧米先進国がそうだから」などの理由が挙げられた。反対派は「18歳は未熟、まだ大人とは言えない」「大学に進む人が多く、自立できる人がまだ少ないから」「過剰な権利意識を生む」「むしろ引き上げるべき」など、現在の18歳は未熟で大人と認められないとしている。わからないとの回答は25%で、「大人の定義がわからない」「いろいろな人がいるので」「判断材料がない」などで、概して消極的な意見が多かったが、「納税している人には参政権を与えるべき」など年齢に依らない考え方もみられた。

2-2. ワーク・ライフ・バランス（WLB）

WLB達成度11項目では、「全く当てはまらない」～「当てはまる」までの4件法としたが、「私は、仕事のための拘束時間が過度に長くなっている」「私は、仕事の量が多くて不安や悩みをもっている」の2項目はネガティブ項目であるので得点を逆転して計算した。従って、得点が高い方がWLBがとれているということになる。

「当てはまる」と「まあ当てはまる」の割合を合わせると、ほとんどの項目で過半数を超える結果であったが、「地域・社会活動に参加できている」は、当てはまる3.6%、まあ当てはまる17.5%で計21.1%に止まった（表3-1）。4件法の得点で表すと、「地域・社会活動に参加できている」1.9、でその他の項目は2.4～2.9という結果であった。11項目合計点は28.3で、男性27.7、女性28.8と女性の達成度が高かった（ $p<0.05$ ）（表3-2）。

項目ごとに性差にみると、男性が高かった項目は「高齢者（60歳以上）が希望に応じて継続して働ける職場である」（ $p<0.01$ ）、「自立できるだけの収入を得ている」（ $p<0.01$ ）の2項目で、女性の得点が高かった項目は「私は、仕事のための拘束時間が過度に長くなっている」（逆転項目、 $p<0.01$ ）、「私は、仕事の量が多くて不安や悩みをもっている」（逆転項目、 $p<0.01$ ）、「家族や友人、恋人と過ごす時間が取れている」（ $p<0.01$ ）、「家庭内で家事や育児をする時間が取れている」（ $p<0.01$ ）、「学習や趣味・娯楽のための時間がとれている休養やくつろぎの時間が

取れている」（ $p<0.05$ ）の5項目であった。

WLB満足度は、「満足」と「まあ満足」合わせて60.9%、男性54.5%・女性66.9%で女性の満足度が高かった（ $p<0.01$ ）。（表3-3）

バランスのとり方では、1位「1週間でバランスがとれるのがよい」55.5%、2位「1日のうちでバランスがとれるのがよい」25.5%で、上位は昨年度調査と同様の傾向であった。バランスが「偏っていてもよい」は、1.7%、「家族でバランスがとれていればよい」は4.1%で、昨年の5%、12.9%に比べて低く、これらは昨年度の対象である専業主婦に高い傾向があった。（表3-4）。

ワーク・ライフ・バランスという言葉を見たり聞いたことがある割合は19.5%で、昨年度の14.9%に比べやや高くなっていた。（表3-5）。

2-3. ジェネラティビティ行動

ジェネラティビティを表す行為や行動15項目について、過去2ヶ月間に行ったかどうか頻度について尋ね、回答を得点化した。15項目の合計得点は全体12.05、男性11.73・女性12.35で男女間の差はなかった。

最も多く行われていた行動は「3. 誰かの個人的な話に耳を傾けた」で、63.4%が過去2ヶ月間に2回以上行っていた（表4-1）。3件法の平均得点で表すと1.49で、男性の得点は1.42、女性が1.55で、有意な差はなかった。

女性に比べて男性の得点が高かった項目は「2. 年下の人の手本となるようなことをした」（ $p<0.05$ ）、「7. リーダー的な立場に選ばれた」（ $p<0.05$ ）、「12. 家や家具などで壊れたものを修理した」（ $p<0.01$ ）の3項目であった。男性に比べて女性の得点が高かった項目は「5. 誰かに、自分の幼い頃の話をした」（ $p<0.01$ ）、「9. 誰かのために、なにかを作ったあげた」（ $p<0.01$ ）、「11. 趣味で、植物を植えたり、世話をした」（ $p<0.05$ ）、「13. 誰かの応急処置や看病をした。」（ $p<0.01$ ）の4項目であった。

以上のように、ジェネラティビティ行動合計得点では性差がなかったが、その内容では男女の違いが認められた（表4-2）。

2-4. 育児観について

属性による育児観の違いについて検討を行った。育児観に関する設問の選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そうは思わない」の4件法であり、順に4～1点として集計した。従って平均点が高い方が、その項目に同意、共感しているものが多いということになる。

1) 性・年代別育児観

20代男性、30代男性、20代女性、30代女性の4群に分けて、育児観に関する回答の平均値の比較を行った結果、15項目中11項目において順位と検定による有意差

が認められた。中でも、「子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」「子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない」「子育てにはお金がかかるがやむをえない」については20代女性の平均点が高かった。

「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育てには息抜きやリフレッシュが必要である」「子育ては自分を成長させることができる」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」「人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」「父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である」については、男性よりも女性の平均点が高く、特に30代男性の平均点が低いことが特徴であった(表5、図3)。

2) 子どもの有無と育児観の関連

子どもの有無による育児観の比較を行った結果、「子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育てをすることにより自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない」「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」および「私は、人づきあいが得意である」については、子どもがいない場合の平均点が高い傾向であった。一方、「子育ては楽しい」や「子どもを見ているとおもしろいと感じる」については、子どもがいる場合の平均点が高かった(図4)。

3) 婚姻形態と育児観の関連

婚姻形態を「既婚」「未婚」「離別・死別」の3群に分けて比較を行った。その結果、「子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」については、未婚者の得点が最も高かった。また、「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」においては、離婚・死別の場合が最も得点が高く、次いで未婚、既婚の順であった。

「子育ては楽しい」「子育ては自分を成長させることができる」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」については、既婚者の得点が高かった(図5)。

2-5. 将来の明るさについて

将来について「1 暗い」～「5 明るい」の5件法で尋ねたところ、「自分の将来について」の平均得点は男性2.8・女性3.0とほぼ中位で、「この国の将来について」は男性2.1・女性2.0とやや暗い方に寄っていた。いずれも男女差はなく、自分の将来よりも、国の将来の方が暗いと捉えていた(表6-1、6-2)。

3. EPSI 得点の属性別比較

今回、新たな試みとして EPSI 56 項目から、同一性、親密性、生殖性(ジェネラティビティ)の3課題21項目

のみを採用したので(以下では、EPSI(3)と記す)、本年データの検討後、過去のデータとの相違を検討した。

表7-1、7-2に示すように、本年データの3課題それぞれの合計および EPSI(3)の合計では生殖性のみ性差があり、年代よる差がなかった(表7-3)。年代別に見ると、性差は20代のみに見られた。男性の生殖性得点が有意に高いという点で、表8、表9に示す昨年度を含む過去のデータと同傾向であった^{4) 5)}。なお、本年データにおいて、子どもの有無別では差がなかった。

4. 尺度間の相関

主なる尺度間で Spearman の順位相関係数を算出した。EPSI(3)とSOC間は0.605、WLB達成度とWLB満足度間は0.604とそれぞれ高い相関が認められた。EPSI(3)とWLB満足度間は0.335、EPSI(3)とジェネラティビティ行動間は0.420、SOCとWLB満足度間は0.359とそれぞれ中程度の相関が認められた。WLB達成度と労働時間の間は-0.303と中程度の負の相関が認められた(表10)。

5. 仮説1の検討：EPSI(3)高低3群の比較

仮説1「人格の成熟度の高い人は、仕事と生活の調和をとり、ジェネラティビティ行動がとれる。」ことを証明するために、EPSI(3)すなわち人格の成熟度と他の設問との関連を分析した。

EPSI(3)の合計得点は平均値が46.9、最小値6、最大値74、標準偏差10.6であった。得点が低い方6-43を低群(154件)、44-52を中群(133件)、53-74を高群(153件)として、3群間の比較を行った。有意な差が認められた主な項目は以下の通りであった(表11)。

「将来子どもが何人欲しいか」の平均値は、低群2.2人・中群2.0人・高群2.3人と、高群が中群に比べて多かった。上司や家族、恋人など周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じる頻度の平均得点は、低群1.9・中群1.6・高群1.6と、低群が他の群に比べ高かった。

WLB満足度は低群2.4・中群2.6・高群2.8で、低群が高群に比べ有意に低かった。

WLB達成度、ジェネラティビティ行動合計、「自分の将来の明るさ」「この国の将来の明るさ」の各得点では、いずれも低群が高群・中群に比べて低く、中群と高群間では差がなかった。それぞれの得点を以下に示すと、WLB達成度合計[低群27.1・中群28.8・高群29.0]、ジェネラティビティ行動合計[低群10.0・中群12.7・高群13.6]、SOC[低群46.0・中群51.0・高群53.0]、自分の将来の明るさ[低群2.5・中群3.0・高群3.2]、この国の将来の明るさ[低群1.8・中群2.0・高群2.2]であった。

1) EPSI(3)高低3群別WLB達成度

WLB達成度について項目ごとの得点を表12に示す。WLB達成度では、拘束時間など柔軟な働き方などや職場環境

に関しては、顕著な差が認められなかったが、個人生活に関する項目では、低群と高群間で差が認められた。低群に比べ、高群が高かった項目は「6. 自立できるだけの収入を得ている」「7. 私は、家族や友人、恋人と過ごす時間が取れている」「8. 私は、家庭内で家事や育児をする時間が取れている」「9. 私は、地域・社会活動に参加できている」であった。EPSI(3)高群は、WLBにおいて個人生活の充実度が高いと言えよう。

2) EPSI(3)高低3群別ジェネラティビティ行動

ジェネラティビティ行動の各項目については、表13に示す。低群が中群および高群に比べ低く、中-高群間で差がなかった項目は以下の通りである。「1. 自分のもっている技術を誰かに教えた」「3. 誰かの個人的な話に耳を傾けた」「7. リーダー的な立場に選ばれた」「15. 過去の経験を生かして、誰かに助言した」。

低群と高群間のみに差があった項目は以下である。「2. 年下の人の手本となるようなことをした」「4. 誰かに善悪について教えた」「8. 家族以外のグループのために計画を立てた」「12. 家や家具などで壊れたものを修理した」。

従って低群のみ、他群に較べて有意に得点が低い項目があり、15項目に合計についても低群は、他群に較べて有意に得点が低いという結果であった。

3) EPSI(3)と育児観

EPSI(3)得点と育児観項目の得点について Spearman の順位相関係数を算出した。その結果、正の有意な相関が認められた項目は、「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育てにはお金がかかるがやむをえない」「子育ては楽しい」「子育ては自分を成長させることができる」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」「私は、人づきあいが得意である」「人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」「父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である」であり、負の相関が認められた項目は「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」であった。

SOC得点と育児観項目の相関においても、EPSI得点の場合とほぼ同様の結果であった(表14)。

6. 仮説2の検討：大人になったと感じた時期別の比較

仮説2「大人として扱われることが、大人としての自覚を促し、人格の成熟を促す」を証明するために、大人になったと感じた時期と他の設問項目との関連を分析した。大人になったと感じた時期が21歳以前の群(166人)、22歳以降の群(208人)、まだ大人にならなかつたと感じていない群(66人：以下無自覚群と記す)の3群間で比較を行った。3群間の性比、年齢差は認められなかった。

1) 大人になったと感じた時期別、現在大人として扱われているか

大人になったと感じた時期別に、現在大人として扱われているか否かについて図7~9に示した。現在「父に大人として扱われている」との回答は無自覚群24.2%に対

して、21歳以前の群73.5%、22歳以降の群68.3%と、無自覚群の割合が低かった(図7)。「母に大人として扱われている」についても、無自覚群33.3%に対して、21歳以前の群81.9%・22歳以降の群69.7%と、無自覚群が低かった(図8)。

上司や家族、恋人など周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じる割合は、「たまに」「時々」「いつも」を合わせて無自覚群が約8割に達するのに対して、21歳以前の群・22歳以降の群は5割未満であった(図9)。無自覚群は「大人として扱われていない」と感じる頻度が他群に比べて高かった。

「父から大人として扱われるようになった時期」は、21歳以前の群20.8歳、22歳以降の群22.5歳、無自覚群23.9歳で、無自覚群が他群に比べて遅かった。同じく「母から」でも、21歳以前の群20.3歳、22歳以降の群22.7歳・無自覚群22.9歳と無自覚群が他群に比べて遅かった(表15)。

2) 大人になったと感じた時期別各尺度の得点

各尺度の得点合計平均値を、[21歳以前の群・22歳以降の群・無自覚群]の順に以下に示すと、WLB達成度合計[29.1, 28.1, 26.8]、WLB満足度[2.7, 2.6, 2.2]、ジェネラティビティ行動合計[13.2, 12.2, 8.9]、EPSI(3)[49.2, 48.2, 37.1]、SOC[51.7, 50.7, 43.1]であった。無自覚群は、他群に比べて有意に得点が低かった。一方21歳以前の群と22歳以降の群の間では有意な差が認められず、大人であることを自覚した時期よりも、現在の自覚の有無が、各尺度の得点に影響を及ぼしていると言える(表15)。よって次項は、自覚の有無2群間で分析した。

3) 大人であることの自覚有無別育児観

大人であることの自覚がある＝自分は大人であると思っている人と、大人である自覚がない＝まだ大人になっていないと思っている人の育児観の比較を行った結果、「親になったら子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である」「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育てにはお金がかかるがやむをえない」「子育ては楽しい」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」「私は、人づきあいが得意である」「父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である」については、大人であると思っている場合の平均得点が高かった。一方、「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育てには息抜きやリフレッシュが必要である」については、大人になっていない場合の得点が高かった(図6)。

7. アンケートに対する意見

アンケート最後に記述式でアンケートの内容に関する意見を求めた。193件(43.9%)の記入があり、うち78

件(40.4%)が本調査に参加したことに対する肯定的な意見であった。その内容は、「自分を見つめ直すことが出来た」「自分の今までの生き方やこれからの生き方を考えさせられた」「ワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけになった」などであった。否定的意見は6件(3.1%)で「暗い気持ちになった」「胸に突き刺さる質問」などであった。「難しい」「長い」などの設問に関する指摘は51件(26.4%)。要望として「目的・結果を知りたい」が22件(11.3%)、中立的な感想や自己の考えを述べたものが36件(18.7%)であった。

IV. 考察

昨年度の結果を踏まえ、大人になるということと養育力の関連を追究した。調査対象を、働いている20代30代男女とし、仕事と生活の調和をとりながら、養育力を発揮するための条件を見いだそうとした。

1. ワーク・ライフ・バランス(WLB)達成度と満足度

WLB達成度は「仕事と生活のバランスがとれている」とは、どのような状態であるのを明らかにするとともに、EPSI(3)との関連を調べ、人格の成熟度がWLBの達成に関連があるとの仮説を証明しようとした。

WLBの獲得には労働時間の問題が不可避であるので、はじめに検討したい。WLB達成度とWLB満足度との間は比較的高い相関が認められた(0.604)が、WLB達成度と労働時間は中程度の負の相関であり(-0.303)、WLB満足度と労働時間の相関は低かった(-0.153)。WLB満足度には労働時間以外の要因が働いていることが考えられる。

EPSI(3)の高い群については、WLB達成度が高く、WLB満足度も高いという関連が認められた。EPSI(3)高低3群間の労働時間の長さは差がなかったので、同じ労働時間であっても人格の成熟度の高い人はWLB達成度およびWLB満足度が高く保てることが示唆された。EPSI(3)と相関の高いSOC(首尾一貫感覚)でも、WLB達成度およびWLB満足度と正の相関が認められた。

次にWLBの内容であるが、WLB達成度の項目別にみると、就業時間の柔軟性など職場環境に関する項目はEPSI(3)高低による差が認められなかったが、身近な人と過したり、家事・育児、休養・くつろぎの時間がとれるなど、個人生活の充実に関する項目で差が認められた。また、WLB満足度とWLB達成度の各項目の相関でも、個人生活を充実させるための時間がとれることと相関が高かった。

以上からWLB達成度には、物理的な労働時間の長さがマイナス要因として作用するものの、WLB満足度は、個人生活のための時間がとれていると感じるかどうかの主観が関連し、人格の成熟度や人生に対する首尾一貫性などの影響も小さくないことが示唆された。

2. ジェネラティビティ行動

McAdamsらは、Loyola Generativity Scale(LGS)およびGenerativity Behavior Checklist(GBC)を考案し、ジェネラティビティ関心とジェネラティビティ行動が関連することを報告している^{15) 16)}。本研究では、これまでの過去の調査において、ジェネラティビティ行動として育児観の項目を用いてきたが、対象を自分の子どもに限定しない養育力を調べることを目的に新たな尺度の導入を検討した。丸島ら¹⁴⁾はGBCの日本語版(ジェネラティビティ行動尺度)を作成しその妥当性を検討しているが、更に信頼性を高めていく必要があるとしている。LGSとGBCはわが国の社会生活にはそぐわない内容が含まれているため、邦訳に留まらない日本版の完成が待たれるところである。現段階では、GBCの一部を参考にジェネラティビティ行動項目を作成することを試み、EPSI(3)との関連を調べた。

その結果ジェネラティビティ行動項目の内的整合性は0.876であり、EPSI(3)との相関は0.42という有意な相関が認められた。性別の比較では、合計得点では性差がなかったが、その内容には性差が認められ、男性は、手本やリーダー的立場を示す項目の得点が高く、女性は誰かのために何かをする「世話」の得点が高かった。ジェネラティビティ行動に性差があることが明らかになった。

EPSI(3)高低3群との比較では、ジェネラティビティ行動15項目中10項目で差が認められたが、低群のみが他群に比べ、有意にジェネラティビティ行動得点が低かった。

以上のように、人格の成熟度は、WLB達成度、WLB満足度、ジェネラティビティ行動と関連が認められ、仮説1は支持された。すなわち、人格の成熟した人はそうでない人に比べ、仕事と生活のバランスをとり、ジェネラティビティ行動をとる傾向があるということになるが、WLB達成度およびジェネラティビティ行動における性差の問題は、労働環境・就業条件および家庭における役割の男女の違いを反映していることが推察される。また、EPSI(3)の低群のみが他群に比べて、ジェネラティビティ行動が少ないことは、EPSI得点とジェネラティビティ行動が、単なる正の相関だけではないことを示していると言えよう。

従って、次世代育成策としてはEPSI(3)低群への働きかけが社会全体の養育力を高めることとなり、低群へのより手厚い支援が必要であると言える。

3. 大人観について

少子化の背景要因については、人口学、経済学、社会学分野での分析が進んでおり、近年は「成人期への移行」(transition to adulthood)という概念で、子どもから大人になる過程にある若者への支援の必要性が強調され

ている¹⁸⁾ ¹⁹⁾。ワーキング・プアの問題などから、若者への経済的支援が緊急課題とされており、経済的に自立することは、大人への移行の重要な条件である。しかし、この社会を存続されていくためには次世代育成・世代継承の課題として、成人期における人としての発達・成熟が必須である。経済的自立は大人への第一段階であり、本研究における大人とは、「経済的精神的自立に止まらず、自分以外の存在に関心を示し世話をする、ジェネラティビティ（養育力）を備えた状態」と捉えている。

昨年に引き続き大人観を調べたが、ジェネラティビティに関わる項目が下位に位置していたのは同傾向であった。2年分のデータから言えることは、大人になるということのイメージは、第一に経済的・社会的自立であり、第二には、精神的自立・自律、第三番目以降に、人との関係や“ジェネラティビティ”の獲得ということになり、エリクソンの人生段階における課題、青年期の同一性、前成人期の親密性、成人期の生殖性という順序と一致していた。

大人というイメージにジェネラティビティが希薄という結果の原因として、もともと大人のイメージが描かれていない対象が含まれることもあげられようが、3つ選択という質問設定の問題も否めない。また「一人前の大人」という文言は、子どもを脱して大人になったばかりの状態や、青年期の同一性獲得の段階と捉えられた可能性があり、「成熟した大人とは」との文言が本研究目的に相応しかったとも考えられ、今後の課題としたい。

自分が大人であると自覚していない人は15%認められた。この無自覚群と、自覚ありの群を比較した結果、無自覚群は親や周囲から大人として扱われていない割合が高いことが分かった。また、無自覚群はEPSI(3)、WLB達成度、ジェネラティビティ行動の各得点が他群に比べて低く、仮説2が支持された。すなわち、大人として扱われることが大人としての自覚を促し、人格の成熟を促す可能性が示唆された。

では、大人として扱われていないと感じるのはどのような時であろうか。結果は「甘えが通る」ことが第1位で特に女性において割合が高かった。2位「過剰な干渉」、3位「信頼されていない」は男性において割合が高かったなど、若者を大人として扱う時の参考となる。他に「話をきいてくれない」「威圧的な態度」などあげられたが、大人として扱うこと以前に一人の人として尊重されているかどうかに関わる事柄である。過去に家庭生育環境について調査したが、EPSIの高い群の父母は傾聴的で子どもを尊重していたという結果が想起される⁹⁾。一方、第1位が「甘えが通る」とは示唆に富んでおり、日本社会は甘えが通る社会であると言われるが、そのことが人の成熟を妨げているという指摘と受け止められよう。

そこで、未熟な大人が増えていると言われる原因について意見を求めたところ、「親が、大人として扱わないから」「大人になりたくないと思っているから」「大人のイ

メージが備わっていないから」がいずれも30%台と少ない割合で選択され、甘えが許されている状況が伺えた。上位は「人間関係が希薄で社会性が育たない」56%「家庭の教育機能が低下」49%であったが、次いで、「自立生活する社会基盤(仕事や住まい)がないから」も30%台であった。これらは若者の自立支援対策としての対処が可能であり、施策として今後ますます力点がおかれることを望みたい。一方「大人のイメージがない」「大人になりたくない」という若者にはどう対処したらよいのだろうか。正に世代継承の問題であり、若者に大人としての充実した生き方を示していくことが、大人世代の課題といえよう。

4. 育児観について

昨年までの本研究⁵⁾からは、子育ての捉え方が積極的・肯定的であり、社会性や連帯性意識の強いものは、EPSI得点やSOC得点が高く、次世代育成力としての養育力と育児観は関連があるという結果を得ている。本年度も、20~30代の働く男女という対象について、育児観についての特徴や、養育力との関連について検討を行った。

まず、性別、世代別の属性による比較では、男性よりも女性の方が育児の負担感の認識度が高く、特に20代女性は、子育てにより仕事を犠牲にすることや、経済的負担がかかると考えているものが多いようである。また、30代男性は、子育ての楽しさの認識度が低く、社会的連帯感、ワーク・ライフ・バランスに対する意識が低いという結果であった。この結果に関しては、意識が低いというよりも、30代男性の場合は仕事中心の生活のものが多く、子どもや地域社会とのかかわりの機会が相対的に減少する世代であると考えられるかも知れない。

子どもの有無や婚姻形態による比較の結果、子どもがいない者や未婚者の方が、育児の犠牲感や負担感を強く認識している傾向であった。これに対して、子育ての楽しさや有意義感については、子どもがいる場合や既婚者の平均点が高かった。厚生労働省が2004年に実施した「少子化に関する意識調査研究」²⁰⁾の結果によると、「子育てには辛いことより楽しいことが多いはずだ」に賛成する割合は、独身者や子どもがいない場合よりも、子どもが一人あるいは複数いる場合に高いという結果であり、本研究と同様の傾向が認められている。実際の子育てにより、ポジティブな育児観が形成されるか、あるいは、ポジティブな育児観を持っているものが、結婚や子育てを選択しているとも考えられ、結婚や子どもを持つことに関するハードルを越えることができるかどうか、育児の負担感や子育ての捉え方が関係していると考えられた。

一方、人づきあいに関する項目では、子どもありの場合に得点が低く、実際の子育てをめぐる人間関係の中で困難を感じるが生ずるのかも知れない。離婚・死別

の場合に子育ての心理的・肉体的負担が最も大きいという結果もあわせ、子育て支援のあり方を考えるにあたって留意すべき点が示唆されたと思われる。

大人であるかどうかと育児観の関係からは、大人と自覚している場合は、子育ての負担感が少なく、子育てに意義や喜びを見だし、社会性の成熟度も高いことがわかった。逆に、大人になれないものは、育児に関する時間的・経済的負担への許容度が低く、子育てへの負担感が大きく、人間関係が苦手であり、社会的連帯感やワーク・ライフ・バランスについても共感性が低いという特徴が認められた。自らを大人と認めることは、子育てをポジティブに捉え、養育力を高める重要な要素と考えられた。

EPSI 得点と育児観の関連においては、EPSI 得点の高いものは、育児の負担感が低く、子育てに楽しみや有意義感を持ち、育児観が積極的・肯定的であった。また、社会性、共感性なども備えており、ワーク・ライフ・バランスへの共感性も高く、EPSI 得点を人格の成熟度と捉えると、人格の成熟とポジティブな育児観（養育力）との関連性が認められた。SOC 得点についても同様の結果であり、これらの所見は、昨年度の乳幼児を持つ親や大学生およびその親を対象とした研究結果⁵⁾と同様の傾向であった。

5. 養育力の育成へ向けて

人格の成熟と養育力の関連を示し、大人になることへの支援の重要性を示した。実際にどのような支援が必要であるか、すでに、若者を大人として扱うことの重要性は示したが、将来の明るさについての設問と、自由記述の意見からもある糸口がみえた。

大人であるとの自覚のない群は、自覚のある群に比べ、自分の将来は暗いと思っていた。EPSI 低群も高い群に比べ、自分の将来が暗く、この国の将来も暗いと思っていた。全体では自分の将来より、この国の将来は暗いとする傾向がみられた。次世代育成の観点から、若者が見通しの明るいと感じる社会を構築することが求められる。と同時に、自らの将来を明るいと思えるよう、個人への支援が必要である。

自由記述回答に記された意見で、「アンケートに答えることによって、自分を見つめ直すことが出来た」「自分の今までの生き方やこれからの生き方を考えさせられた」「ワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけになった」などが比較的多く記載されており、回答することにメリットが認められたことは収穫であった。大人になるまでの発達支援の重要性は言をまたないが、青年期以前から、将来の見通しをもった人生観を育てることが重要である。すでに成人期を迎えた世代にとっては、現在の生活を見直し、これからの生き方を考える機会を設けることが、養育力を発揮し充実した人生を送ることへの支援として有効な方策のひとつであろう。生き方を考える機会とし

て、今回使用した WLB 達成度やジェネラティビティ行動項目がある程度有効なことが明らかとなった。

V. 結論

人格の成熟は、仕事と生活のバランスをとり、ジェネラティビティ行動を生み出すという仮説が支持され、成人を大人として扱うことが、大人としての自覚を促すことが示唆された。また、自らを大人と認めることは、子育てをポジティブに捉え、養育力を高める重要な要素と考えられた。

すなわち、大人としての自覚を促し養育力を高めるためには、若者を「大人として扱うこと」が肝要であり、経済的自立が可能となる環境を整えるとともに、甘えを通させない、過剰に干渉しない、信頼する、など自立を促す対応が望まれる

成人への養育力育成支援としては、仕事と生活のバランスをとり充実した生活を送るために、自らの生活を見つめ直す機会を設けることが一助となろう。今回使用した、WLB 達成度やジェネラティビティ行動の項目は、このためのチェックリストとして有効であることが確認された。

文献：

- 1) 第 12 回厚生政策セミナー報告書。超少子化と家族・社会の変容－ヨーロッパの経験と日本の政策課題－。国立社会保障・人口問題研究所。2008 年 2 月 5 日
- 2) E. H. エリクソン。ライフサイクル。その完結。みすず書房。88-89。1989
- 3) 小此木啓吾。他。〈次世代を育む心の危機〉ジェネラティビティ・クライシスをめぐって。慶応義塾出版会。2004。
- 4) 中西信男・佐方哲彦。EPSI-エリクソン心理社会的段階目録検査-。上里一郎監修。心理アセスメントハンドブック第 2 版。西村書店。365-376。2001
- 5) 齋藤幸子・宮原忍・他。少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究(1)－ワーク・ライフ・バランスと養育力に関する調査－。日本子ども家庭総合研究所紀要：第 42 集：145-164。2007
- 6) 宮原忍・他。少子社会における養育力と価値観に関する研究 (III) 乳幼児をもつ保護者の養育力と育児観に関する調査。日本子ども家庭総合研究所紀要。第 42 集：113-125。2006
- 7) 宮原忍・他。少子社会における養育力と価値観に関する研究 (II) 親子間の継承に関するアンケート結果。日本子ども家庭総合研究所紀要。；第 41 集：103-116。2005
- 8) 宮原忍・他。少子社会における養育力と価値観に関する研究 (I) EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査) とライフスキル。日本子ども家庭総合研究所紀要。第 40 集：129-142。2004

- 9) 齋藤幸子・他. 少子社会における次世代育成力に関する調査.
保健医療科学. Vol. 53. No. 3; 218-227. 2004
- 10) 宮原忍. 他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第三報) 「次世代育成に関するアンケート調査」分析と統括. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 第39集; 151-167. 2003
- 11) 宮原忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第一報) 文献研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 第37集: 97-115. 2001
- 12) 宮原忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第二報) 次世代育成に関するアンケート調査結果. 日本子ども家庭総合研究所紀要. 第38集: 151-163. 2002
- 13) アーロン・アントノフスキー. 山崎喜比古・吉井清子監訳.
健康の謎を解く; ストレス対処と健康保持のメカニズム.
有信堂. 2001
- 14) 丸島令子, 有光興記. 世代性関心と世代性行動尺度の改訂版作成と信頼性, 妥当性の検討. 心理学研究第78巻第3号: 303-309. 2007
- 15) McAdams, D.P., & de St. Aubin, E. (1992). A theory of generativity and its assessment through self-report, behavioral acts, and narrative themes in autobiography. *Journal of Personality and Social Psychology*, 62, 1003-1015 --
- 16) McAdams, D.P., Hart, H.M., & Maruna, S. (1998). The anatomy of generativity. In D.P. McAdams and E. de St. Aubin (Eds.), *Generativity and adult development: How and why we care for the next generation* (pp. 7-43). Washington, D.C.: APA Press.
- 17) <http://www.gender.go.jp/danjo-kaigi/wlb/siryo/wlb11-1-6.pdf> (平成20年1月)
- 18) 宮本みち子. ポスト青年期と親子戦略. 勁草書房. 2004
- 19) 佐藤龍三郎. 第2章 転換期の青年層. 阿藤誠・津谷典子編著. 人口学ライブラリー6 人口減少時代の日本社会. 原書房. 2007
- 20) 厚生労働省 HP 「少子化に関する意識調査研究」、
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/syousika/040908/index.html>

表1. 対象の属性

No.		全体	%	男性	%	女性	%	男性 20代	%	男性 30代	%	女性 20代	%	女性 30代	%
1	男性	211	48.0	211	100.0	0	0.0	106	100.0	105	100.0	0	0.0	0	0.0
2	女性	229	52.0	0	0.0	229	100.0	0	0.0	0	0.0	113	100.0	116	100.0
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0
1) 最終学歴															
1	中学校	6	1.4	0	0.0	6	2.6	0	0.0	0	0.0	4	3.5	2	1.7
2	高校	84	19.1	38	18.0	46	20.1	14	13.2	24	22.9	19	16.8	27	23.3
3	専門・専修学校	70	15.9	33	15.6	37	16.2	22	20.8	11	10.5	16	14.2	21	18.1
4	短大・高専	51	11.6	5	2.4	46	20.1	2	1.9	3	2.9	18	15.9	28	24.1
5	大学	207	47.0	121	57.3	86	37.6	60	56.6	61	58.1	52	46.0	34	29.3
6	大学院	21	4.8	13	6.2	8	3.5	7	6.6	6	5.7	4	3.5	4	3.4
7	その他	1	0.2	1	0.5	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2) 勤務形態															
1	正規の会社員	251	57.0	151	71.6	100	43.7	68	64.2	83	79.0	54	47.8	46	39.7
2	契約社員	25	5.7	10	4.7	15	6.6	7	6.6	3	2.9	10	8.8	5	4.3
3	派遣社員	36	8.2	8	3.8	28	12.2	4	3.8	4	3.8	15	13.3	13	11.2
4	パート・アルバイト・非常勤	82	18.6	18	8.5	64	27.9	12	11.3	6	5.7	26	23.0	38	32.8
5	自営業・会社経営・自由業	26	5.9	13	6.2	13	5.7	7	6.6	6	5.7	5	4.4	8	6.9
6	公務員	18	4.1	9	4.3	9	3.9	7	6.6	2	1.9	3	2.7	6	5.2
7	その他	2	0.5	2	0.9	0	0.0	1	0.9	1	1.0	0	0.0	0	0.0
3) 先週1週間の延べ労働時間															
	平均	42.5 時間		47.5 時間		37.8 時間		46.4 時間		48.6 時間		40.8 時間		34.9 時間	
	標準偏差	13.9		11.9		14.0		12.6		11.2		14.3		13.1	
	最大値	100.0		100.0		90.0		80.0		100.0		90.0		70.0	
	最小値	4.0		7.0		4.0		7.0		18.0		5.0		4.0	
4) 上記のうち残業時間															
	平均	5.0 時間		6.8		3.3 時間		6.9 時間		6.7 時間		4.6 時間		2.0 時間	
	標準偏差	6.7		6.8		6.1		7.3		6.3		7.8		3.3	
	最大値	45.0		40.0		45.0		40.0		20.0		45.0		16.0	
	最小値	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
5) 昨年度の年収															
1	100万円未満	53	12.0	9	4.3	44	19.2	6	5.7	3	2.9	16	14.2	28	24.1
2	100万円～	70	15.9	19	9.0	51	22.3	14	13.2	5	4.8	29	25.7	22	19.0
3	200万円～	84	19.1	34	16.1	50	21.8	23	21.7	11	10.5	29	25.7	21	18.1
4	300万円～	102	23.2	56	26.5	46	20.1	36	34.0	20	19.0	25	22.1	21	18.1
5	400万円～	68	15.5	41	19.4	27	11.8	20	18.9	21	20.0	10	8.8	17	14.7
6	500万円～	30	6.8	25	11.8	5	2.2	4	3.8	21	20.0	0	0.0	5	4.3
7	600万円～	15	3.4	11	5.2	4	1.7	2	1.9	9	8.6	2	1.8	2	1.7
8	700万円～	11	2.5	11	5.2	0	0.0	0	0.0	11	10.5	0	0.0	0	0.0
9	800万円～	2	0.5	1	0.5	1	0.4	0	0.0	1	1.0	1	0.9	0	0.0
10	900～1000万円未満	5	1.1	4	1.9	1	0.4	1	0.9	3	2.9	1	0.9	0	0.0
6) 婚姻関係															
1	結婚している(入籍)	173	39.3	86	40.8	87	38.0	28	26.4	58	55.2	22	19.5	65	56.0
2	籍は入れていない、事実婚	4	0.9	1	0.5	3	1.3	0	0.0	1	1.0	1	0.9	2	1.7
3	未婚である	249	56.6	119	56.4	130	56.8	77	72.6	42	40.0	87	77.0	43	37.1
4	離別または死別した	14	3.2	5	2.4	9	3.9	1	0.9	4	3.8	3	2.7	6	5.2

表2. 大人観

表2-1 「一人前の大人になる」とはどういうことだと思いますか。昨年度の多かった回答の、1位「責任ある行動がとれる」、2位「経済的に親の世話にならない」、3位「社会的常識が身につく」以外に、大切だと思うことを3つ選んでください。

No.	全体		男性		女性		男性						女性					
	%	No.	%	No.	%	No.	20代			30代			20代			30代		
							%	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%	No.
1 社会に貢献する	88	20.0	43	20.4	45	19.7	26	24.5	17	16.2	24	21.2	21	18.1				
2 親から精神的に自立する	253	57.5	110	52.1	143	62.4	63	59.4	47	44.8	74	65.5	69	59.5				
3 家族ができる(結婚する・子どもが産まれる)	119	27.0	62	29.4	57	24.9	28	26.4	34	32.4	28	24.8	29	25.0				
4 受容・寛容・我慢強さを身につける	172	39.1	77	36.5	95	41.5	41	38.7	36	34.3	38	33.6	57	49.1				
5 自分以外の人を経済的に養うことができる	100	22.7	58	27.5	42	18.3	32	30.2	26	24.8	26	23.0	16	13.8				
6 税金を納める	71	16.1	33	15.6	38	16.6	12	11.3	21	20.0	22	19.5	16	13.8				
7 人と調和してやっていける	122	27.7	49	23.2	73	31.9	22	20.8	27	25.7	31	27.4	42	36.2				
8 自分を客観的に見られる	115	26.1	56	26.5	59	25.8	26	24.5	30	28.6	28	24.8	31	26.7				
9 判断力・決断力がつく	208	47.3	107	50.7	101	44.1	51	48.1	56	53.3	50	44.2	51	44.0				
10 自分より年下の人の面倒をみる	13	3.0	10	4.7	3	1.3	4	3.8	6	5.7	1	0.9	2	1.7				
11 周りの人を気遣い、世話をやく	44	10.0	19	9.0	25	10.9	7	6.6	12	11.4	14	12.4	11	9.5				
12 その他	15	3.4	9	4.3	6	2.6	6	5.7	3	2.9	3	2.7	3	2.6				
回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0				
回答数合計	1320	300.0	633	300.0	687	300.0	318	300.0	315	300.0	339	300.0	348	300.0				

表2-2. 現在、あなたは、あなたのお父様に大人として扱われていますか。※お父様がいらっしゃらない場合は、非該当を選んでください。

No.	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1 はい	280	63.6	133	63.0	147	64.2	76	71.7	57	54.3	68	60.2	79	68.1
2 いいえ	95	21.6	46	21.8	49	21.4	24	22.6	22	21.0	35	31.0	14	12.1
3 非該当	65	14.8	32	15.2	33	14.4	6	5.7	26	24.8	10	8.8	23	19.8
回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表2-3. お父様が大人として扱ってくれるようになったのは、あなたが何歳の頃でしたか。

	全体	男性	女性	男20	男30	女20	女30
平均	21.8	21.6	22.0	21.1	22.4	20.8	23.0
標準偏差	3.4	3.2	3.5	2.4	3.9	2.7	3.9
最大値	35.0	35.0	32.0	27.0	35.0	27.0	32.0
最小値	9.0	12.0	9.0	16.0	12.0	9.0	15.0
回答者数合計	280	133	147	76	57	68	79

表2-4. 現在、あなたは、あなたのお母様に大人として扱われていますか。※お母様がいらっしゃらない場合は、非該当を選んでください。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	はい	303	68.9	140	66.4	163	71.2	73	68.9	67	63.8	72	63.7	91	78.4
2	いいえ	112	25.5	56	26.5	56	24.5	29	27.4	27	25.7	37	32.7	19	16.4
3	非該当	25	5.7	15	7.1	10	4.4	4	3.8	11	10.5	4	3.5	6	5.2
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表2-5. お母様が大人として扱ってくれるようになったのは、あなたが何歳の頃でしたか。

	全体	男性	女性	男20	男30	女20	女30
平均	21.6	21.5	21.7	20.9	22.2	20.6	22.5
標準偏差	3.6	3.2	4.0	2.5	3.7	3.4	4.2
最大値	36.0	36.0	32.0	27.0	36.0	28.0	32.0
最小値	9.0	13.0	9.0	16.0	13.0	9.0	15.0
回答者数合計	303	140	163	73	67	72	91

表2-6. あなた自身が、「自分は大人になった」と感じたのはいつでしたか。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	中学校を卒業した時	5	1.1	3	1.4	2	0.9	0	0.0	3	2.9	2	1.8	0	0.0
2	高校を卒業した時	26	5.9	17	8.1	9	3.9	12	11.3	5	4.8	5	4.4	4	3.4
3	体が大人になったと感じた時	3	0.7	2	0.9	1	0.4	1	0.9	1	1.0	1	0.9	0	0.0
4	20歳になった時・成人式	51	11.6	30	14.2	21	9.2	14	13.2	16	15.2	12	10.6	9	7.8
5	大学・大学院を卒業した時	23	5.2	12	5.7	11	4.8	5	4.7	7	6.7	4	3.5	7	6.0
6	仕事についた時	174	39.5	79	37.4	95	41.5	45	42.5	34	32.4	46	40.7	49	42.2
7	恋人が出来た時	2	0.5	0	0.0	2	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.7
8	初めてセックスをした時	3	0.7	3	1.4	0	0.0	2	1.9	1	1.0	0	0.0	0	0.0
9	結婚した時	22	5.0	10	4.7	12	5.2	2	1.9	8	7.6	7	6.2	5	4.3
10	子どもが生まれた時	18	4.1	7	3.3	11	4.8	1	0.9	6	5.7	1	0.9	10	8.6
11	選挙で投票をした時	4	0.9	2	0.9	2	0.9	1	0.9	1	1.0	2	1.8	0	0.0
12	収入をある程度得られて経済的に余裕を感じた時	34	7.7	12	5.7	22	9.6	8	7.5	4	3.8	7	6.2	15	12.9
13	まだ大人になったと感じていない	66	15.0	31	14.7	35	15.3	14	13.2	17	16.2	23	20.4	12	10.3
14	その他	9	2.0	3	1.4	6	2.6	1	0.9	2	1.9	3	2.7	3	2.6
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表2-7. 「大人になった」と感じたのは何歳の頃でしたか。

	全体	男性	女性	男20	男30	女20	女30
平均	22.2	22.2	22.2	21.4	22.9	21.4	22.9
標準偏差	3.5	3.3	3.7	2.4	4.0	2.9	4.1
最大値	37.0	37.0	35.0	27.0	37.0	28.0	35.0
最小値	8.0	15.0	8.0	16.0	15.0	8.0	15.0
回答者数合計	374	180	194	92	88	90	104

表2-8. 現在あなたは、上司や家族、恋人など周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じることはありませんか。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	ない	225	51.1	111	52.6	114	49.8	46	43.4	65	61.9	42	37.2	72	62.1
2	たまにある	145	33.0	71	33.6	74	32.3	45	42.5	26	24.8	42	37.2	32	27.6
3	時々ある	52	11.8	20	9.5	32	14.0	11	10.4	9	8.6	20	17.7	12	10.3
4	いつもある	18	4.1	9	4.3	9	3.9	4	3.8	5	4.8	9	8.0	0	0.0
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表2-9. どのようなことで「大人として扱われていない」と感じましたか。

No.	全体		男性		女性		男性				女性			
	%	%	%	%	%	%	20代		30代		20代		30代	
							n	%	n	%	n	%	n	%
1 真剣に話を聞いてもらえない	37	17.2	16	16.0	21	18.3	10	16.7	6	15.0	13	18.3	8	18.2
2 信頼されていない	65	30.2	39	39.0	26	22.6	21	35.0	18	45.0	17	23.9	9	20.5
3 無視される	14	6.5	9	9.0	5	4.3	5	8.3	4	10.0	3	4.2	2	4.5
4 過剰に干渉される	73	34.0	31	31.0	42	36.5	18	30.0	13	32.5	33	46.5	9	20.5
5 自立できる環境が与えられない	16	7.4	4	4.0	12	10.4	3	5.0	1	2.5	9	12.7	3	6.8
6 必要な情報を教えてもらえない	29	13.5	19	19.0	10	8.7	8	13.3	11	27.5	4	5.6	6	13.6
7 責任ある仕事につかせてもらえない	15	7.0	10	10.0	5	4.3	5	8.3	5	12.5	3	4.2	2	4.5
8 自分のことを自分で決めさせてもらえない	17	7.9	10	10.0	7	6.1	8	13.3	2	5.0	3	4.2	4	9.1
9 期待されていない	31	14.4	18	18.0	13	11.3	7	11.7	11	27.5	7	9.9	6	13.6
10 甘えが通る	93	43.3	32	32.0	61	53.0	21	35.0	11	27.5	45	63.4	16	36.4
11 プライバシーを侵害される	16	7.4	9	9.0	7	6.1	5	8.3	4	10.0	5	7.0	2	4.5
12 威圧的態度で接される	37	17.2	15	15.0	22	19.1	7	11.7	8	20.0	11	15.5	11	25.0
13 その他	7	3.3	2	2.0	5	4.3	2	3.3	0	0.0	2	2.8	3	6.8
回答者数合計	215	100.0	100	100.0	115	100.0	60	100.0	40	100.0	71	100.0	44	100.0
回答数合計	450	209.3	214	214.0	236	205.2	120	200.0	94	235.0	155	218.3	81	184.1

表2-10. 「未熟な大人が増えている」と言われることがあります。その原因について、あなたのお考えに近いものはどれですか。

No.	カテゴリー名	全体		男性		女性		男20		男30		女20		女30	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	親が、青年期以降の子どもを、大人として扱わないからである。	142	32.3	63	29.9	79	34.5	37	34.9	26	24.8	40	35.4	39	33.6
2	親元を離れて生活できる社会基盤（仕事や住まい）がないからである。	139	31.6	58	27.5	81	35.4	30	28.3	28	26.7	37	32.7	44	37.9
3	若者が、大人になりたくないと思っているからである。	135	30.7	68	32.2	67	29.3	34	32.1	34	32.4	35	31.0	32	27.6
4	大人になるとはどういうことかのイメージが備わっていないからである。	142	32.3	63	29.9	79	34.5	29	27.4	34	32.4	35	31.0	44	37.9
5	人間関係が希薄になり、社会性などが育たないからである。	247	56.1	101	47.9	146	63.8	45	42.5	56	53.3	63	55.8	83	71.6
6	家庭の教育機能が低下しているからである	217	49.3	103	48.8	114	49.8	50	47.2	53	50.5	52	46.0	62	53.4
7	学校教育の中で、人格形成がされにくいからである	99	22.5	55	26.1	44	19.2	28	26.4	27	25.7	25	22.1	19	16.4
8	その他	23	5.2	9	4.3	14	6.1	4	3.8	5	4.8	10	8.8	4	3.4
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0
	回答数合計	1144	260.0	520	246.4	624	272.5	257	242.5	263	250.5	297	262.8	327	281.9

表2-11. 日本国憲法の改正手続に関する法律（略称：国民投票法）によって、2年後に18歳が法的に大人であると認められることについて

No.	カテゴリー名	全体		男性		女性		男20		男30		女20		女30	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	適切だと思う	137	31.1	85	40.3	52	22.7	40	37.7	45	42.9	24	21.2	28	24.1
2	適切ではないと思う	194	44.1	84	39.8	110	48.0	42	39.6	42	40.0	54	47.8	56	48.3
3	わからない	109	24.8	42	19.9	67	29.3	24	22.6	18	17.1	35	31.0	32	27.6
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表3-1 ワークライフバランス達成度（カテゴリー集計）

	1全く当てはまらない		2あまり当てはまらない		3まあ当てはまる		4当てはまる		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
	1 出勤時間や休業など、柔軟な働き方を選択できる職場である	78	17.7	116	26.4	157	35.7	89	20.2	440
2 女性が出産・育児等に影響なく（継続）就業できる職場である	80	18.2	126	28.6	158	35.9	76	17.3	440	100.0
3 高齢者（60歳以上）が希望に応じて継続して働ける職場である	92	20.9	149	33.9	137	31.1	62	14.1	440	100.0
4 私は、仕事のための拘束時間が過度に長くなっている（R）	54	12.3	129	29.3	182	41.4	75	17.1	440	100.0
5 私は、仕事の量が多くて不安や悩みをもっている（R）	46	10.5	136	30.9	172	39.1	86	19.6	440	100.0
6 私は、自立できるだけの収入を得ている	67	15.2	121	27.5	171	38.9	81	18.4	440	100.0
7 私は、家族や友人、恋人と過ごす時間が取れている	19	4.3	100	22.7	226	51.4	95	21.6	440	100.0
8 私は、家庭内で家事や育児をする時間が取れている	46	10.5	136	30.9	204	46.4	54	12.3	440	100.0
9 私は、地域・社会活動に参加できている	142	32.3	205	46.6	77	17.5	16	3.6	440	100.0
10 私は、学習や趣味・娯楽のための時間がとれている	35	8.0	144	32.7	195	44.3	66	15.0	440	100.0
11 私は、休養やくつろぎの時間が取れている	26	5.9	112	25.5	235	53.4	67	15.2	440	100.0

表3-2. ワークライフバランス達成度(得点集計)

	全体		男性		女性		男性20代		男性30代		女性20代		女性30代	
	平均	標準偏差												
1 出勤時間や休業など、柔軟な働き方を選択できる職場である	2.58	1.00	2.50	1.00	2.66	1.00	2.55	0.99	2.46	1.01	2.67	0.99	2.65	1.02
2 女性が出産・育児等に影響なく(継続)就業できる職場である	2.52	0.98	2.51	0.96	2.53	1.00	2.55	0.97	2.48	0.95	2.72	1.00	2.35	0.98
3 高齢者(60歳以上)が希望に応じて継続して働ける職場である	2.38	0.97	2.51	0.94	2.27	0.99	2.50	0.93	2.51	0.95	2.23	0.94	2.31	1.03
4 私は、仕事のための拘束時間が過度に長くなっている(R)	2.63	0.91	2.38	0.88	2.86	0.87	2.39	0.93	2.37	0.84	2.88	0.88	2.84	0.85
5 私は、仕事の量が多くて不安や悩みをもっている(R)	2.68	0.91	2.52	0.87	2.82	0.91	2.44	0.88	2.60	0.86	2.83	0.92	2.81	0.91
6 私は、自立できるだけの収入を得ている	2.60	0.96	2.86	0.86	2.37	0.99	2.77	0.88	2.94	0.83	2.50	0.99	2.25	0.97
7 私は、家族や友人、恋人と過ごす時間が取れている	2.90	0.78	2.78	0.78	3.02	0.77	2.75	0.79	2.80	0.76	3.04	0.82	2.99	0.72
8 私は、家庭内で家事や育児をする時間が取れている	2.60	0.83	2.42	0.83	2.77	0.80	2.37	0.84	2.48	0.82	2.73	0.83	2.81	0.77
9 私は、地域・社会活動に参加できている	1.93	0.80	1.92	0.81	1.93	0.79	1.97	0.87	1.88	0.74	1.85	0.76	2.00	0.82
10 私は、学習や趣味・娯楽のための時間がとれている	2.66	0.83	2.58	0.84	2.74	0.81	2.73	0.81	2.43	0.84	2.81	0.75	2.67	0.86
11 私は、休養やくつろぎの時間が取れている	2.78	0.77	2.70	0.78	2.86	0.76	2.77	0.72	2.62	0.84	2.99	0.71	2.72	0.78
合計	28.28	5.27	27.68	5.40	28.83	5.10	27.79	5.69	27.56	5.11	29.27	5.29	28.41	4.90

(R)は逆転項目、点数を逆転させて計算している。

表3-3. 現在、あなたの生活のバランスについて、どのように感じていますか。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	満足している	38	8.6	14	6.6	24	10.5	11	10.4	3	2.9	13	11.5	11	9.5
2	まあ、満足している	230	52.3	101	47.9	129	56.3	51	48.1	50	47.6	67	59.3	62	53.4
3	やや不満である	128	29.1	67	31.8	61	26.6	33	31.1	34	32.4	26	23.0	35	30.2
4	不満である	44	10.0	29	13.7	15	6.6	11	10.4	18	17.1	7	6.2	8	6.9
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表3-4. 生活のバランスのとりにかたについて、あなたのお考えに一番近いものを1つ選んで下さい。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	1日のうちで、バランスがとれるのがよい	113	25.7	50	23.7	63	27.5	27	25.5	23	21.9	36	31.9	27	23.3
2	1週間の中で、バランスがとれるのがよい	244	55.5	117	55.5	127	55.5	64	60.4	53	50.5	62	54.9	65	56.0
3	1ヶ月くらいの中で、バランスがとれるのがよい	27	6.1	15	7.1	12	5.2	4	3.8	11	10.5	5	4.4	7	6.0
4	1年間で、バランスがとれるのがよい	14	3.2	11	5.2	3	1.3	4	3.8	7	6.7	1	0.9	2	1.7
5	一生涯でバランスがとれるのがよい	16	3.6	7	3.3	9	3.9	2	1.9	5	4.8	2	1.8	7	6.0
6	どれかに偏っていてもかまわないと思う	7	1.6	5	2.4	2	0.9	3	2.8	2	1.9	1	0.9	1	0.9
7	家族で、バランスがとれていればよい	18	4.1	5	2.4	13	5.7	2	1.9	3	2.9	6	5.3	7	6.0
8	その他	1	0.2	1	0.5	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表3-5. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。

No.	カテゴリ名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	はい	86	19.5	45	21.3	41	17.9	26	24.5	19	18.1	17	15.0	24	20.7
2	いいえ	354	80.5	166	78.7	188	82.1	80	75.5	86	81.9	96	85.0	92	79.3
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0

表4-1ジェネラティブティ行動(カテゴリ集計)

	0回		1回		2回以上		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1 自分のもっている技術を誰かに教えた	149	33.9	80	18.2	211	48.0	440	100
2 年下の人の手本となるようなことをした	204	46.4	87	19.8	149	33.9	440	100
3 誰かの個人的な話に耳を傾けた	64	14.6	97	22.1	279	63.4	440	100
4 誰かに善悪について教えた	221	50.2	90	20.5	129	29.3	440	100
5 誰かに、自分の幼い頃の話をした。	175	39.8	85	19.3	180	40.9	440	100
6 自分以外の誰かの子どもの世話をした。	253	57.5	66	15.0	121	27.5	440	100
7 リーダー的な立場に選ばれた	274	62.3	91	20.7	75	17.1	440	100
8 家族以外のグループのために計画を立てた。	235	53.4	96	21.8	109	24.8	440	100
9 誰かのために、なにかを作ってあげた	157	35.7	81	18.4	202	45.9	440	100
10 友人や知り合いの手伝いをした(修理や引っ越しなど)	288	65.5	75	17.1	77	17.5	440	100
11 趣味で、植物を植えたり、世話をした	302	68.6	49	11.1	89	20.2	440	100
12 家や家具などで壊れたものを修理した	283	64.3	77	17.5	80	18.2	440	100
13 誰かの応急処置や看病をした。	303	68.9	58	13.2	79	18.0	440	100
14 新しい技術(言語、楽器、機械操作など)を学んだ	247	56.1	86	19.6	107	24.3	440	100
15 過去の経験を生かして、誰かに助言した。	176	40.0	117	26.6	147	33.4	440	100

表4-2. ジェネラティビティ行動 (得点集計：0=0回、1=1回、2=2回以上)

	全体		男性		女性		男性20代		男性30代		女性20代		女性30代	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
	1 自分のもっている技術を誰かに教えた	1.14	0.89	1.10	0.89	1.17	0.90	1.15	0.89	1.06	0.90	1.22	0.85	1.13
2 年下の人の手本となるようなことをした	0.88	0.89	0.97	0.89	0.79	0.88	0.97	0.90	0.96	0.89	0.77	0.83	0.81	0.92
3 誰かの個人的な話に耳を傾けた	1.49	0.74	1.42	0.77	1.55	0.70	1.49	0.71	1.35	0.82	1.59	0.66	1.51	0.74
4 誰かに善悪について教えた	0.79	0.87	0.71	0.86	0.86	0.87	0.66	0.83	0.76	0.89	0.81	0.82	0.92	0.92
5 誰かに、自分の幼い頃の話をした。	1.01	0.90	0.90	0.90	1.12	0.89	0.92	0.90	0.88	0.91	1.10	0.86	1.14	0.92
6 自分以外の誰かの子どもの世話をした。	0.70	0.87	0.63	0.85	0.76	0.89	0.71	0.87	0.55	0.82	0.74	0.88	0.78	0.90
7 リーダー的な立場に選ばれた	0.55	0.77	0.64	0.80	0.47	0.73	0.63	0.77	0.64	0.83	0.47	0.74	0.47	0.72
8 家族以外のグループのために計画を立てた。	0.71	0.84	0.74	0.86	0.69	0.82	0.72	0.85	0.77	0.87	0.67	0.80	0.70	0.85
9 誰かのために、なにかを作ってあげた	1.10	0.90	0.89	0.90	1.30	0.85	0.91	0.90	0.87	0.91	1.29	0.83	1.31	0.87
10 友人や知り合いの手伝いをした (修理や引っ越しなど)	0.52	0.78	0.55	0.81	0.49	0.74	0.56	0.78	0.54	0.84	0.50	0.72	0.49	0.76
11 趣味で、植物を植えたり、世話をした	0.52	0.81	0.44	0.77	0.59	0.84	0.36	0.73	0.51	0.80	0.51	0.79	0.66	0.88
12 家や家具などで壊れたものを修理した	0.54	0.78	0.68	0.83	0.41	0.71	0.65	0.81	0.70	0.87	0.27	0.55	0.55	0.82
13 誰かの応急処置や看病をした。	0.49	0.78	0.39	0.72	0.59	0.82	0.37	0.71	0.41	0.74	0.50	0.76	0.67	0.87
14 新しい技術 (言語、楽器、機械操作など) を学んだ	0.68	0.84	0.74	0.86	0.62	0.82	0.72	0.83	0.77	0.89	0.56	0.76	0.69	0.88
15 過去の経験を生かして、誰かに助言した。	0.93	0.86	0.94	0.87	0.93	0.84	0.93	0.89	0.94	0.86	0.91	0.82	0.95	0.86
1~15合計	12.05	7.57	11.73	8.06	12.35	7.09	11.74	7.85	11.72	8.31	11.90	6.16	12.78	7.90

表5. 育児観項目×性別・世代別

	合計		男性20代		30代男性		20代女性		30代女性		有意差
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
	1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	2.73	0.79	2.82	0.78	2.72	0.81	2.74	0.81	2.66	
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	3.20	0.68	3.17	0.72	3.14	0.66	3.21	0.70	3.27	0.62	
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	2.75	0.81	2.79	0.76	2.78	0.81	2.92	0.83	2.53	0.80	**
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	2.74	0.77	2.82	0.85	2.79	0.68	2.80	0.76	2.55	0.75	*
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	2.45	0.77	2.33	0.82	2.37	0.62	2.65	0.81	2.41	0.76	**
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	3.15	0.67	3.15	0.70	3.01	0.70	3.29	0.61	3.13	0.65	*
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	3.22	0.67	3.12	0.64	3.14	0.69	3.27	0.64	3.34	0.70	*
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	3.39	0.71	3.31	0.65	3.11	0.78	3.58	0.61	3.53	0.70	***
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	3.60	0.56	3.47	0.59	3.41	0.60	3.74	0.51	3.74	0.46	***
10. 子育ては楽しい	3.07	0.73	3.06	0.70	3.02	0.72	3.14	0.77	3.04	0.74	
11. 子育ては自分を成長させることができる	3.43	0.65	3.36	0.65	3.30	0.75	3.59	0.59	3.46	0.60	**
12. 子どもを見ておもしろいと感じる	3.35	0.74	3.35	0.70	3.20	0.80	3.39	0.71	3.43	0.73	
13. 私は、人づきあいが得意である	2.35	0.79	2.42	0.73	2.21	0.74	2.51	0.90	2.24	0.75	*
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.28	0.59	3.26	0.54	3.14	0.63	3.34	0.61	3.35	0.56	*
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	3.29	0.58	3.25	0.59	3.19	0.54	3.29	0.59	3.41	0.59	*

有意水準 * <0.1 , ** <0.05 , *** <0.01

表6-1. あなたはご自分の将来についてどう思いますか

No.	カテゴリー名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	明るい (5点)	38	8.6	16	7.6	22	9.6	9	8.5	7	6.7	17	15.0	5	4.3
2		88	20.0	36	17.1	52	22.7	21	19.8	15	14.3	27	23.9	25	21.6
3		170	38.6	82	38.9	88	38.4	41	38.7	41	39.0	41	36.3	47	40.5
4		85	19.3	50	23.7	35	15.3	24	22.6	26	24.8	16	14.2	19	16.4
5	暗い (1点)	59	13.4	27	12.8	32	14.0	11	10.4	16	15.2	12	10.6	20	17.2
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0
		平均	標準偏差												
	得点	2.91	1.13	2.83	1.10	2.99	1.15	2.93	1.09	2.72	1.10	3.19	1.18	2.79	1.10

表6-2. この国の将来についてどう思いますか

No.	カテゴリー名	全体	%	男性	%	女性	%	男20	%	男30	%	女20	%	女30	%
1	明るい (5点)	4	0.9	4	1.9	0	0.0	2	1.9	2	1.9	0	0.0	0	0.0
2		19	4.3	10	4.7	9	3.9	6	5.7	4	3.8	5	4.4	4	3.4
3		108	24.5	55	26.1	53	23.1	25	23.6	30	28.6	25	22.1	28	24.1
4		169	38.4	75	35.5	94	41.0	44	41.5	31	29.5	51	45.1	43	37.1
5	暗い (1点)	140	31.8	67	31.8	73	31.9	29	27.4	38	36.2	32	28.3	41	35.3
	回答者数合計	440	100.0	211	100.0	229	100.0	106	100.0	105	100.0	113	100.0	116	100.0
		平均	標準偏差												
	得点	2.04	0.90	2.09	0.97	1.99	0.84	2.13	0.95	2.06	0.99	2.03	0.83	1.96	0.86

表7. EPSI属性別比較

表7-1. 今回データ (2007年度:20代30代)

	全体		男性		女性		順位和 検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
N	440		211		229		
同一性	16.1	4.7	16.4	4.8	15.9	4.5	
親密性	16.7	3.9	16.5	4.1	16.9	3.8	
生殖性	14.1	4.3	14.5	4.1	13.7	4.4	*
13課題合計	46.9	10.6	47.4	10.6	46.5	10.6	

表7-2. 今回データ性別

	男性					女性				
	20代		30代		順位和 検定	20代		30代		順位和 検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		平均	標準偏差	平均	標準偏差	
N	106		105			113		116		
同一性	17.0	4.4	15.8	5.2		15.7	4.9	16.0	4.1	
親密性	16.8	3.9	16.2	4.2		17.0	3.8	16.9	3.8	
生殖性	15.0	3.7	14.0	4.4		13.7	4.4	13.6	4.4	
13課題合計	48.8	9.2	46.0	11.8		46.4	10.8	46.6	10.4	

表7-3. 今回データ年代別

	20代				順位和 検定	30代				順位和 検定
	男性		女性			男性		女性		
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
N	106		113			105		116		
同一性	17.0	4.4	15.7	4.9		15.8	5.2	16.0	4.1	
親密性	16.8	3.9	17.0	3.8		16.2	4.2	16.9	3.8	
生殖性	15.0	3.7	13.7	4.4	*	14.0	4.4	13.6	4.4	
13課題合計	48.8	9.2	46.4	10.8		46.0	11.8	46.6	10.4	

表8. 2006年度 (大学生、大学生の親、乳幼児の親)

	全体		男性		女性		順位和 検定	大学生		乳幼児親		順位和 検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		平均	標準偏差	平均	標準偏差	
N	443		150		293			119		189		
同一性	16.3	3.3	17.1	3.1	16.0	3.3		16.7	4.7	18.8	3.6	**
親密性	18.0	4.0	17.8	3.8	18.1	4.0		18.6	4.0	17.4	4.0	*
生殖性	14.2	4.1	15.7	4.0	13.4	3.9	**	13.6	4.3	14.3	3.8	

表9. 中西ら (2001、18歳~70代)

	全体		男性		女性		t検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
N	913		554		359		
同一性	18.0	4.0	17.8	3.9	18.2	4.1	
親密性	16.3	3.8	16.3	3.7	16.3	3.9	
生殖性	15.4	3.8	15.8	3.8	14.8	3.8	**

*<0.05, **<0.01

表10. 相関表: Spearmanの順位相関係数(ρ)

	EPSI21項目	WLB達成度	WLB満足度	ジェネラティブ ティ行動	SOC	クロンバック α 係数
EPSI21項目合計						0.8577
WLB達成度	0.251 **					0.7563
WLB満足度	0.335 **	0.604 **				—
ジェネラティブティ行動	0.420 **	-0.038	0.023			0.8757
SOC13項目合計	0.605 **	0.297 **	0.359 **	0.220 **		0.7947
労働時間	0.096 *	-0.303 **	-0.153 **	0.095 *	0.041	—

無相関の検定 *<0.05, **<0.01

表11. EPSI高低3群別集計

人数		低群	中群	高群	順位和 検定	多重比較		
		154	133	153		低-中	中-高	低-高
Q2年齢	平均	31.3	30.6	30.4				
	標準偏差	5.0	4.8	5.0				
Q6労働時間	平均	42.0	41.8	43.5				
	標準偏差	13.6	14.2	14.0				
Q7残業時間	平均	4.3	4.8	5.7				
	標準偏差	5.8	7.4	6.8				
SQ10-1将来子どもが何人欲しいか	平均	2.2	2.0	2.3	*		*	
	標準偏差	0.8	0.7	0.8				
Q11-3子ども人数	平均	1.5	1.7	1.9				
	標準偏差	0.7	0.8	0.8				
SQ13-1父は何歳から大人として扱ってくれたか (n=280)	平均	22.3	21.5	21.8				
	標準偏差	4.2	2.8	3.2				
SQ14-1母は何歳から大人として扱ってくれたか(n=303)	平均	21.9	21.2	21.7				
	標準偏差	4.3	2.7	3.7				
SQ15-1大人になったと感じた年齢(n=374)	平均	22.5	22.3	21.9				
	標準偏差	4.1	3.2	3.3				
Q16上司や家族、恋人など周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じる事	平均	1.9	1.6	1.6	*	*		*
	標準偏差	0.9	0.7	0.8				
Q20WLB達成度合計	平均	27.1	28.8	29.0	**	*		**
	標準偏差	5.1	5.5	5.0				
Q21WLB満足度	平均	2.4	2.6	2.8	**			**
	標準偏差	0.8	0.8	0.7				
Q26ジェネラティビティ行動合計	平均	10.0	12.7	13.6	**	**		**
	標準偏差	7.7	7.3	7.3				
Q27SOC合計	平均	46.0	51.0	53.0	**	**		**
	標準偏差	10.4	9.2	9.7				
Q28-1自分の将来は明るい	平均	2.5	3.0	3.2	**	**		**
	標準偏差	1.1	1.0	1.1				
Q28-2この国の将来は明るい	平均	1.8	2.0	2.2	**			**
	標準偏差	0.8	0.9	0.9				

有意確率 **<0.01、*<0.05

表12. EPSI高低3群別ワークライフバランス達成度・満足度

達成度4件法 (1当てはまらない~4当てはまる)、満足度4件法 (1不満~4満足)

人数		低群	中群	高群	検定	多重比較		
		154	133	153		低-中	中-高	低-高
1. 出勤時間や休業など、柔軟な働き方を 選択できる職場である	平均	2.50	2.70	2.57				
	標準偏差	1.06	0.88	1.04				
2. 女性が出産・育児等に影響なく(継続) 就業できる職場である	平均	2.45	2.59	2.53				
	標準偏差	0.95	1.02	0.97				
3. 高齢者(60歳以上)が希望に応じて継 続して働ける職場である	平均	2.29	2.29	2.56	*			*
	標準偏差	0.95	1.00	0.94				
4. 私は、仕事のための拘束時間が過度に 長くなっている(逆転項目)	平均	2.64	2.74	2.54				
	標準偏差	0.95	0.87	0.89				
5. 私は、仕事の量が多くて不安や悩みを もっている(逆転項目)	平均	2.64	2.69	2.70				
	標準偏差	0.91	0.86	0.95				
6. 私は、自立できるだけの収入を得てい る	平均	2.44	2.60	2.78	**			**
	標準偏差	0.92	0.95	0.97				
7. 私は、家族や友人、恋人と過ごす時間 が取れている	平均	2.76	2.96	2.99	*			*
	標準偏差	0.78	0.79	0.75				
8. 私は、家庭内で家事や育児をする時間 が取れている	平均	2.46	2.62	2.74	*			*
	標準偏差	0.83	0.83	0.82				
9. 私は、地域・社会活動に参加できてい る	平均	1.77	1.97	2.05	**			**
	標準偏差	0.67	0.83	0.87				
10. 私は、学習や趣味・娯楽のための時間 がとれている	平均	2.53	2.75	2.73	*			
	標準偏差	0.75	0.88	0.84				
11. 私は、休養やくつろぎの時間が取れて いる	平均	2.64	2.86	2.84	*			
	標準偏差	0.77	0.79	0.74				
Q20WLB達成度合計	平均	27.12	28.77	29.02	**	*		**
	標準偏差	5.09	5.53	5.05				
Q21WLB満足度	平均	2.42	2.62	2.75	**			**
	標準偏差	0.78	0.82	0.72				

表13. EPSI高低3群別ジェネエラティビティ行動

(過去2か月間に行った回数 0:なし 1:1回 2:2回以上)

人数		低群	中群	高群	検定	多重比較		
		154	133	153		低-中	中-高	低-高
1. 自分のもっている技術を誰かに教えた	平均	0.92	1.26	1.26	**	**		**
	標準偏差	0.92	0.85	0.87				
2. 年下の人の手本となるようなことをし た	平均	0.68	0.90	1.05	**			**
	標準偏差	0.87	0.88	0.88				
3. 誰かの個人的な話に耳を傾けた	平均	1.29	1.62	1.58	**	**		**
	標準偏差	0.82	0.62	0.70				
4. 誰かに善悪について教えた	平均	0.66	0.80	0.92	*			*
	標準偏差	0.86	0.88	0.85				
5. 誰かに、自分の幼い頃の話をした。	平均	0.88	1.07	1.10				
	標準偏差	0.90	0.89	0.89				
6. 自分以外の誰かの子どもの世話をし た。	平均	0.62	0.72	0.76				
	標準偏差	0.86	0.87	0.88				
7. リーダー的な立場に選ばれた	平均	0.33	0.59	0.73	**	*		**
	標準偏差	0.68	0.78	0.80				
8. 家族以外のグループのために計画を立 てた。	平均	0.58	0.68	0.88	**			**
	標準偏差	0.81	0.82	0.85				
9. 誰かのために、なにかを作ってあげた	平均	1.03	1.05	1.22				
	標準偏差	0.92	0.89	0.88				
10. 友人や知り合いの手伝いをした(修理 や引っ越しなど)	平均	0.45	0.55	0.57				
	標準偏差	0.74	0.78	0.80				
11. 趣味で、植物を植えたり、世話をした	平均	0.49	0.55	0.52				
	標準偏差	0.79	0.85	0.80				
12. 家や家具などで壊れたものを修理した	平均	0.44	0.51	0.66	*			*
	標準偏差	0.76	0.79	0.79				
13. 誰かの応急処置や看病をした。	平均	0.38	0.60	0.51	*			
	標準偏差	0.71	0.83	0.80				
14. 新しい技術(言語、楽器、機械操作な ど)を学んだ	平均	0.55	0.73	0.78	*			
	標準偏差	0.80	0.85	0.86				
15. 過去の経験を生かして、誰かに助言し た。	平均	0.71	1.04	1.07	**	**		**
	標準偏差	0.83	0.85	0.85				
ジェネエラティビティ行動合計	平均	9.99	12.67	13.59	**	**		**
	標準偏差	7.66	7.27	7.32				

表14. 育児観項目とEPSI (3)・SOC合計点との相関

*p<0.1, **p<0.05, ***p<0.01

	同一性	有意差	親密性	有意差	生殖性	有意差	EPSI合計	有意差	SOC合計	有意差
1.親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	-0.011		0.091		0.060		0.064		-0.008	
2.親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	0.102	*	0.147	**	0.009		0.092		-0.016	
3.子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	-0.008		0.065		0.063		0.035		-0.027	
4.子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	0.176	***	0.197	***	0.303	***	0.272	***	0.200	***
5.子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	0.021		0.133	**	0.102	*	0.090		0.017	
6.子育てにはお金がかかるがやむをえない	0.123	*	0.210	***	0.130	**	0.180	***	0.048	
7.子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	-0.169	***	-0.166	***	-0.294	***	-0.258	***	-0.203	***
8.子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	-0.021		0.067		-0.051		-0.016		-0.048	
9.子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	-0.041		0.016		-0.067		-0.047		-0.088	
10.子育ては楽しい	0.157	**	0.268	***	0.432	***	0.346	***	0.164	**
11.子育ては自分を成長させることができる	0.063		0.169	***	0.177	***	0.155	**	0.008	
12.子どもを見ているとおもしろいと感じる	0.088		0.195	***	0.234	***	0.200	***	0.008	
13.私は、人づきあいが得意である	0.437	***	0.578	***	0.484	***	0.606	***	0.427	***
14.人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	0.170	***	0.198	***	0.176	***	0.218	***	0.137	**
15.父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	0.104	*	0.210	***	0.145	**	0.178	***	0.050	

表15. 大人としての自覚時期別クロス集計

<早い→大人としての自覚→遅い>

有意確率 **<0.01、*<0.05

		A.21歳以前に自覚	B.22歳以降に自覚	C.まだ大人と感じていない	順位和検定	多重比較		
		166	208	66		A-B	B-C	A-C
Q2年齢	平均	30.6	31.14	30.14				
	標準偏差	5.36	4.73	4.34				
Q4-1学歴 (ダミー：大学中退を大学に含む)	平均	3.45	4.46	3.85	**	**	*	**
	標準偏差	1.28	1.15	1.32				
SQ10-1将来子どもが何人欲しいか	平均	2.15	2.14	2.33				
	標準偏差	0.67	0.79	1.04				
Q11-3子ども数	平均	1.72	1.67	1.57				
	標準偏差	0.66	0.89	0.98				
SQ13-1父は何歳から大人として扱ってくれたか (n=280)	平均	20.76	22.49	23.94	**	**		**
	標準偏差	3.42	3.03	3.68				
SQ14-1母は何歳から大人として扱ってくれたか (n=303)	平均	20.28	22.7	22.86	**	**		**
	標準偏差	3.46	3.33	3.87				
Q16上司や家族、恋人など周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じる頻度	平均	1.51	1.63	2.35	**	**		**
	標準偏差	0.78	0.74	0.95				
Q20WLB達成度合計	平均	29.12	28.08	26.8	**			**
	標準偏差	5.09	5.21	5.58				
Q21WLB満足度	平均	2.69	2.64	2.21	**	**		**
	標準偏差	0.77	0.76	0.79				
Q26ジェネラティビティ行動合計	平均	13.17	12.15	8.92	**	**		**
	標準偏差	8.26	6.92	6.93				
Q25EPSI3課題合計	平均	49.2	48.24	37.11	**	**		**
	標準偏差	9.98	8.97	11.57				
Q27SOC合計	平均	51.69	50.72	43.09	**	**		**
	標準偏差	10.25	9.11	10.94				
Q28-1自分の将来は明るい	平均	2.97	3.05	2.33	**	**		**
	標準偏差	1.08	1.09	1.18				
Q28-2この国の将来は明るい	平均	2.05	2.09	1.86				
	標準偏差	0.91	0.94	0.78				

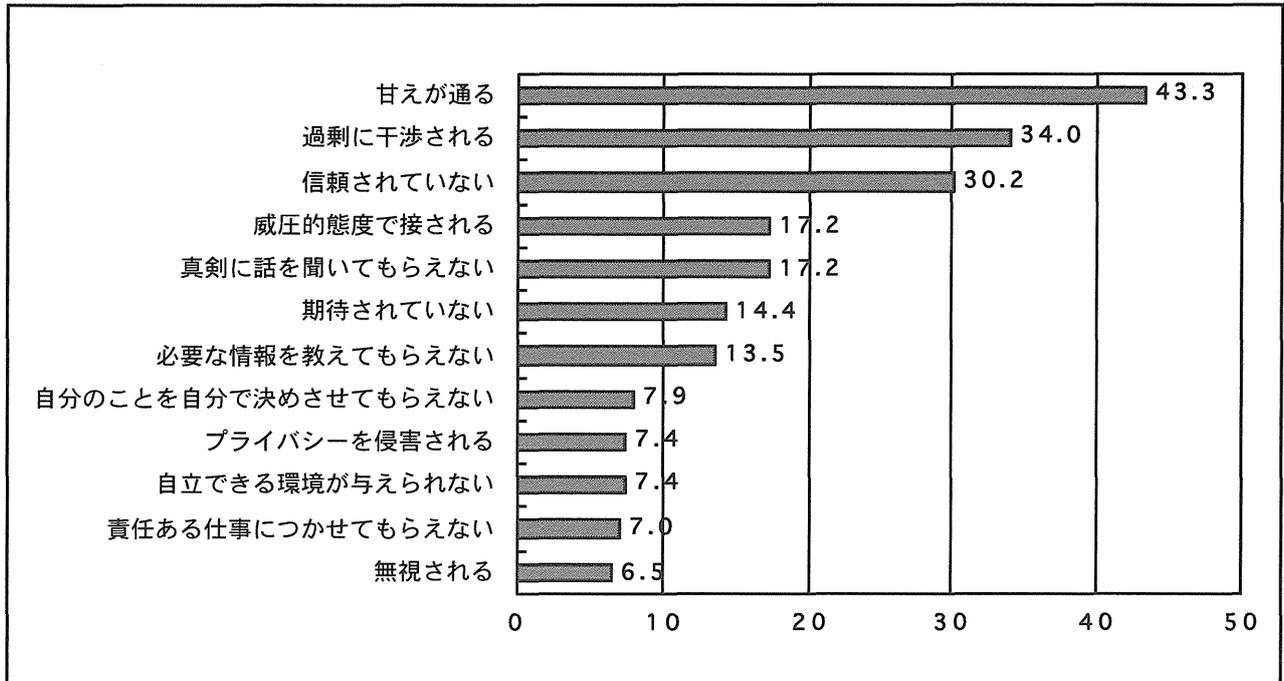


図1. どのようなことで「大人として扱われていない」と感じたか

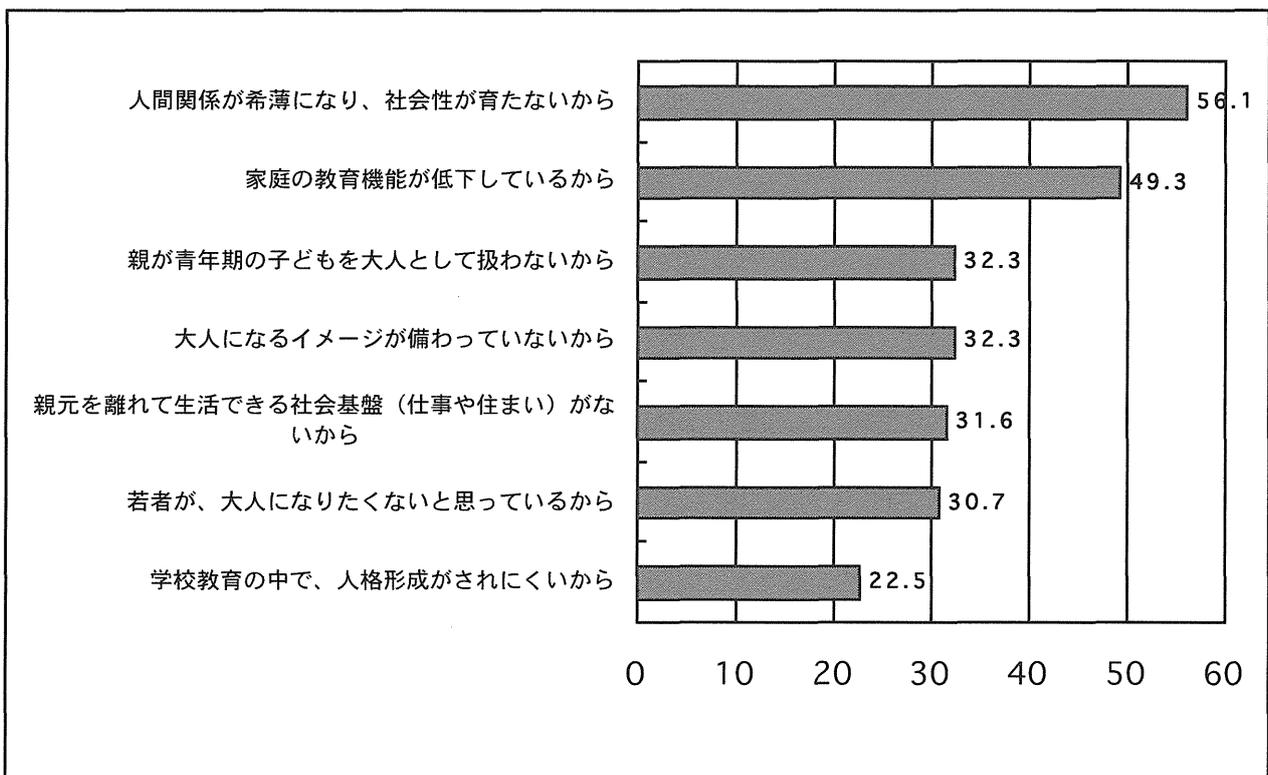


図2. 「未熟な大人が増えている」と言われる原因

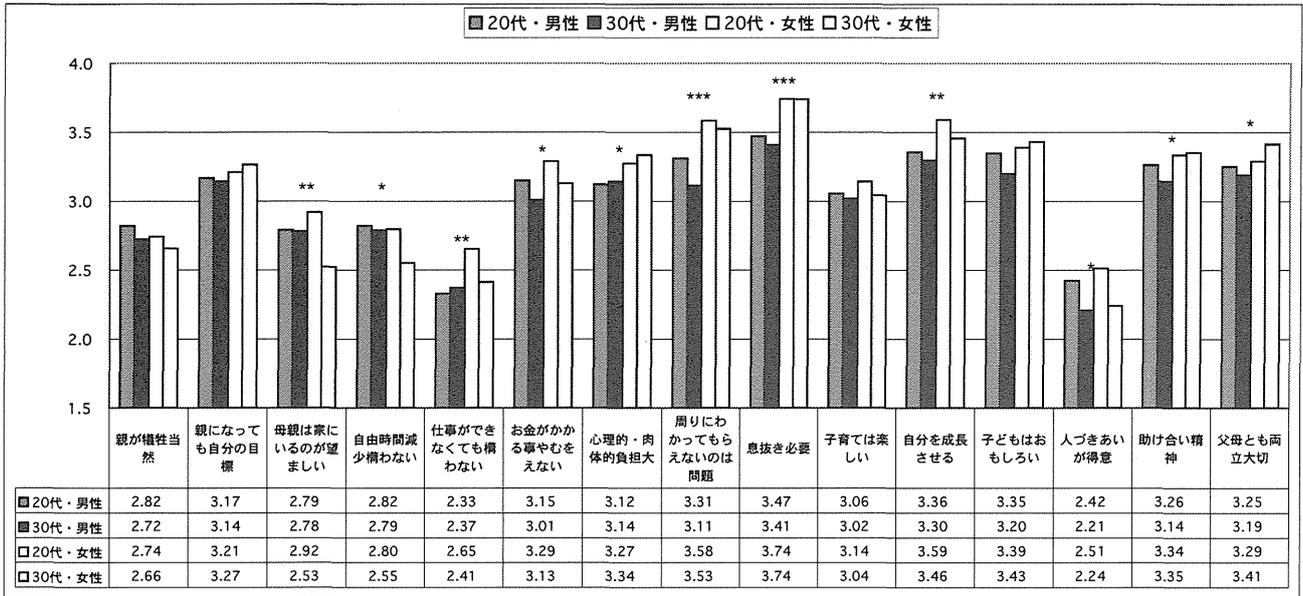


図3. 性・年代別育児観

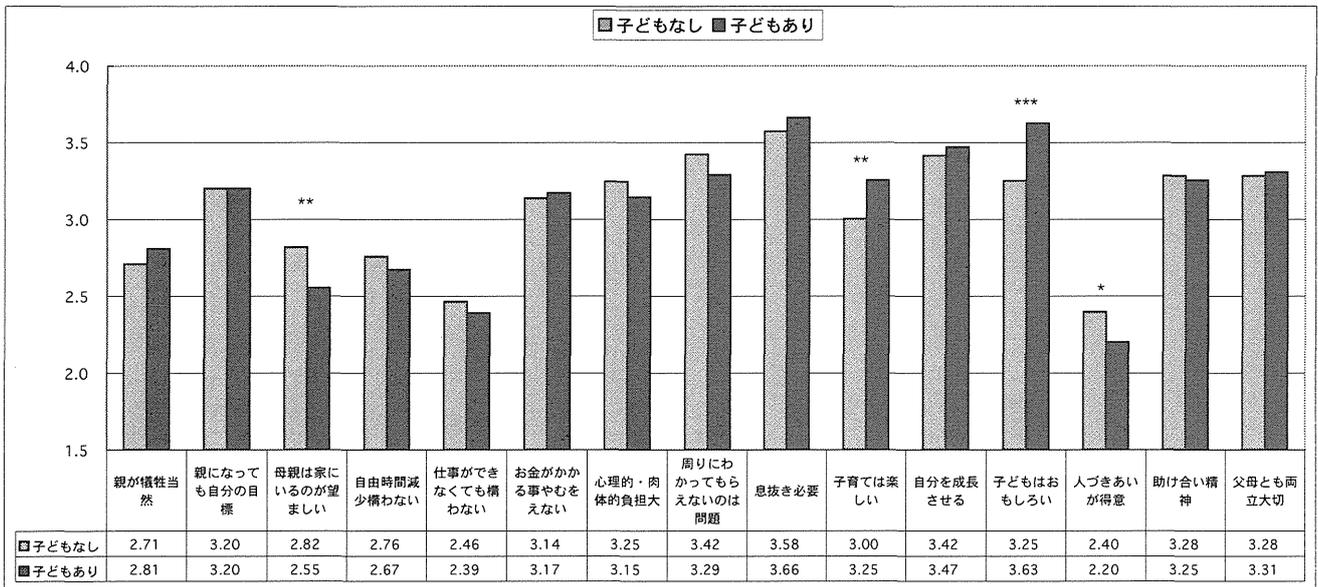


図4. 育児観×子どもの有無

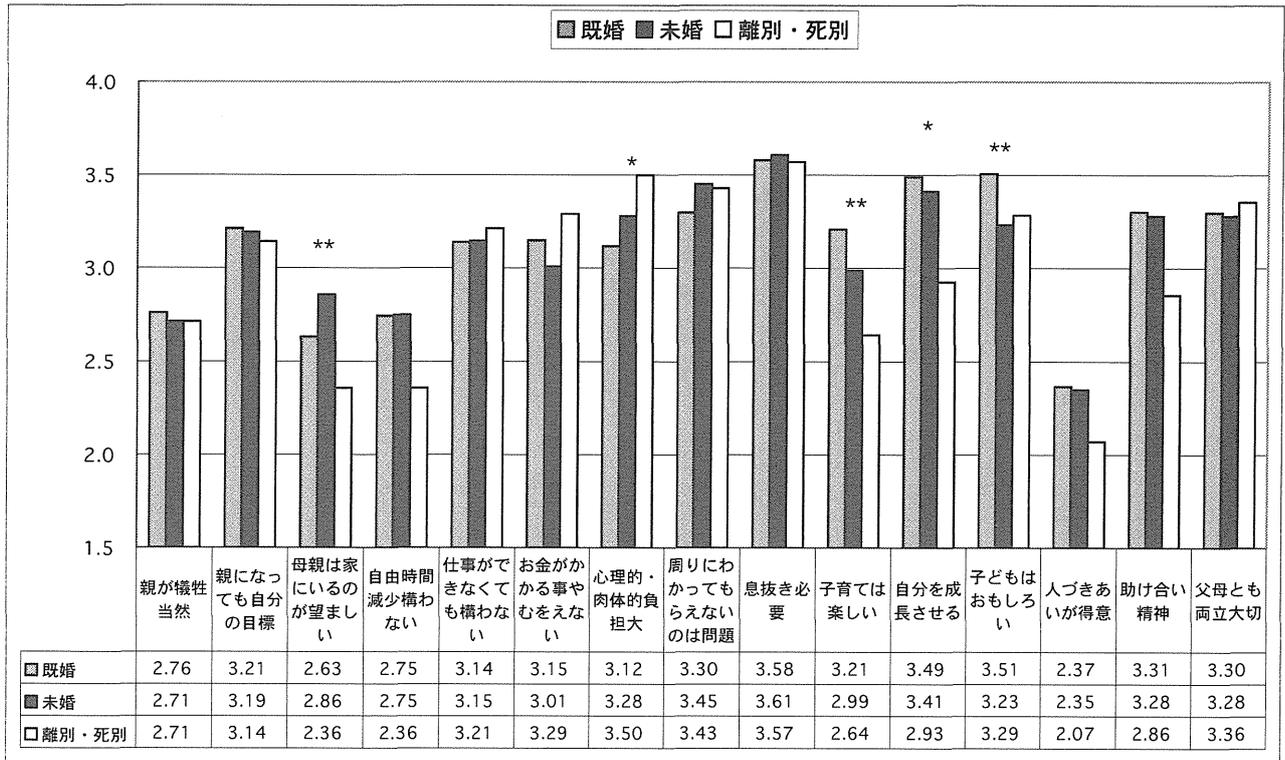


図5. 育児観×結婚形態

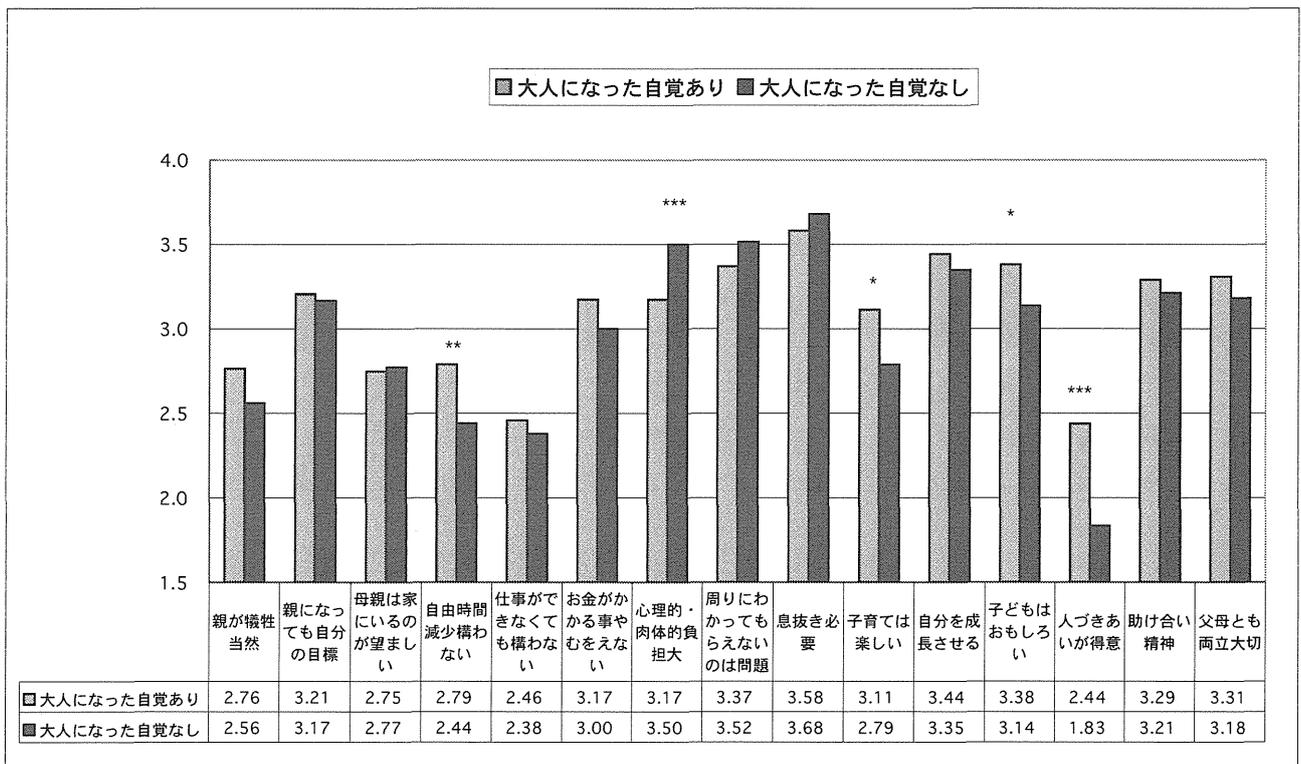


図6. 育児観×大人になった自覚の有無

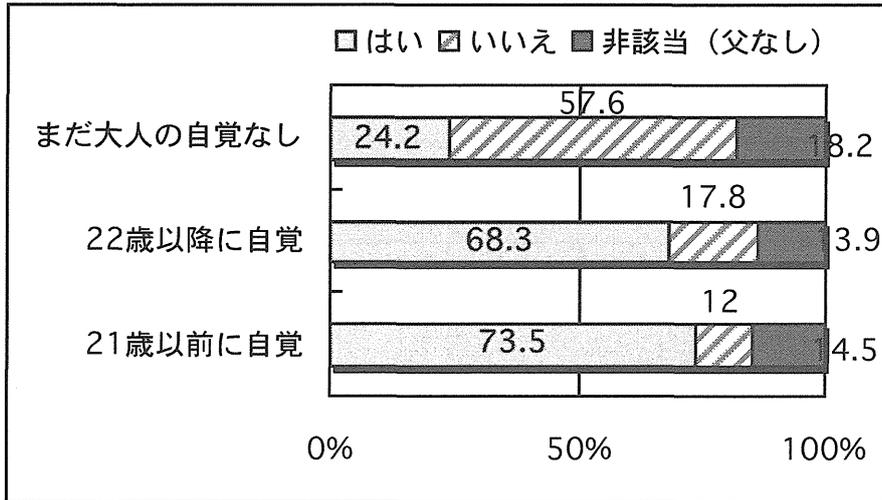


図7 大人としての自覚時期別「現在父に大人として扱われているか」

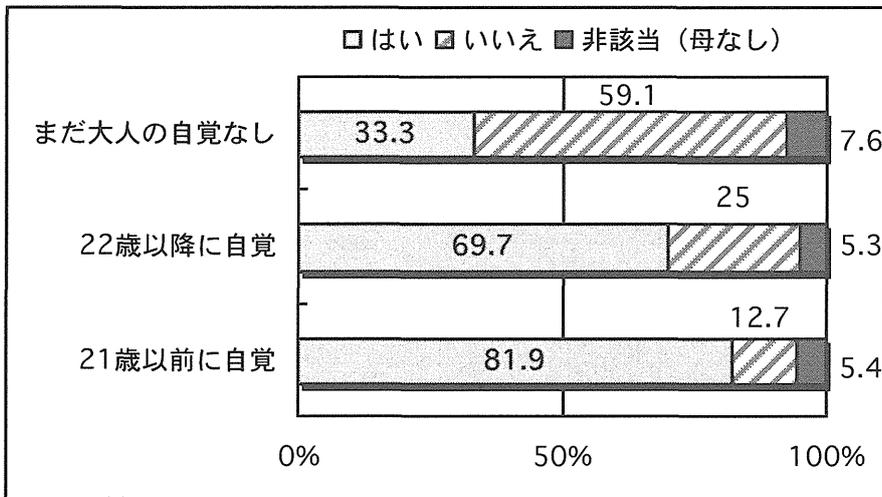


図8 大人としての自覚時期別「現在母に大人として扱われているか」

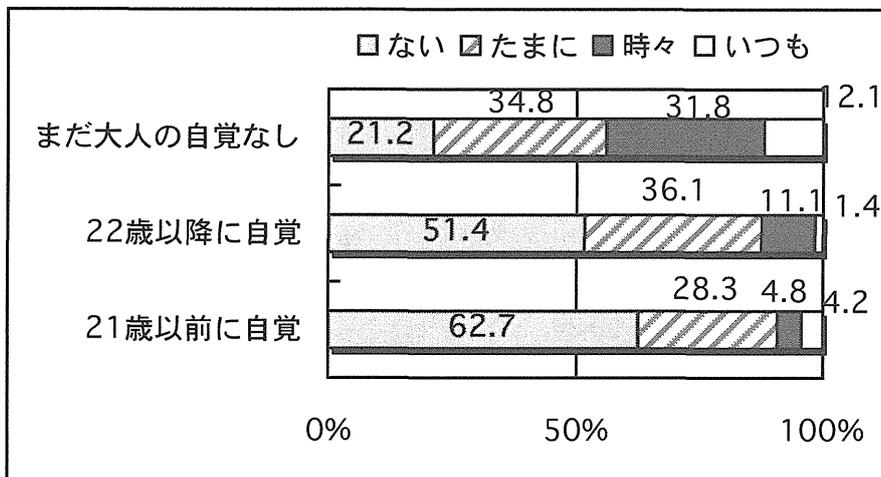


図9 大人としての自覚時期別周囲の人との関係や社会の中で「大人として扱われていない」と感じる経験

＜資料；昨年度のデータよりEPSI項目の検討＞

Spearmanの順位相関係数(ρ)EPSI(同一性+親密性+生殖性)21項目と全56項目の場合の比較

サンプル；平成18年度428件(大学生・大学生の親・乳幼児の親全443件より欠損値のある15件を除く)

世代継承観および育児観は4件法、EPSI5件法、SOCは7件法

	変数	EPSI21項目			EPSI全56項目		
		(ρ)	p値 (Prob> ρ)	プロット	(ρ)	p値 (Prob> ρ)	プロット
Q14 世代 継承 観	1. 私は親や上の世代から伝えられる財産(物的)を大切にしたい	0.0565	0.2366	+	0.0180	0.7064	
	2. 私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にし、次の世代に引き継がせたい	0.1884	<.0001	++	0.2126	<.0001	++
	3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい	0.2516	<.0001	++	0.2179	<.0001	++
	4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである	0.1969	<.0001	++	0.2024	<.0001	++
	5. 子どもをほしい、と思う人が安心して産み育ててゆける環境づくりは、現在の最優先課題である	0.0576	0.2287	+	0.0822	0.0852	+
Q15 育児 観	1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	-0.0366	0.4434		-0.0746	0.1179	-
	2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	0.1054	0.0266	+	0.0977	0.0398	+
	3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	0.0680	0.1537	+	0.0206	0.6661	
	4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	0.1759	0.0002	++	0.1686	0.0004	++
	5. 子育てをすることにより、自分の仕事思うようにできなくてもかまわない	-0.0172	0.7194		0.0223	0.641	
	6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	0.1390	0.0034	+	0.0895	0.0601	+
	7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	-0.2005	<.0001	--	-0.1922	<.0001	--
	8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	-0.0968	0.042	-	-0.1441	0.0024	-
	9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	-0.0723	0.1293	-	-0.0787	0.0984	-
	10. 子育ては楽しい	0.3392	<.0001	+++	0.3553	<.0001	+++
	11. 子育ては自分を成長させることが出来る	0.2618	<.0001	++	0.2765	<.0001	++
	12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	0.2543	<.0001	++	0.2342	<.0001	++
	13. 私は、人づきあいが得意である	0.4935	<.0001	++++	0.4269	<.0001	++++
	14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	0.2664	<.0001	++	0.1889	<.0001	++
	15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	0.2457	<.0001	++	0.1536	0.0012	+
EPSI	全56項目合計	0.8848	<.0001	+++++++	1		
SOC	13項目合計	0.5800	<.0001	+++++	0.7103	<.0001	+++++